

S	陶芸Ⅰ－1 日常の器/ ロクロ技法 科目コード： 64001
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	無
開講日程・ 開講地・定員	陶芸Ⅰ－1(日常の器/ロクロ技法)a 開催日程：2019年11月9日（土）～ 2019年11月10日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：25 陶芸Ⅰ－1(日常の器/ロクロ技法)b 開催日程：2019年11月16日（土）～ 2019年11月17日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：25
担当者	西村充*、田中良昭、吉村敏治

科目概要と到達目標

この科目では、電動ロクロによる水挽き（碗の成形技法）を習得し、形の美しさや機能性など、器への理解を深めます。日々の食卓を演出する器は、色、形、大きさなど、用途によって千差万別です。その中でも例えば飯碗は、それぞれが自分用を持ち、身近なモノとして愛着を感じているでしょう。事前に制作する碗のイメージを考えてみます。「形は？丸みがあるのか、直線的なのか…どの位の大きさにするか？具体的に口径、深さ…」など考えられる要素を書き出してみます。2日間のスクーリングでは、基本である土揉みから水挽き、削りまでの工程を体験し、自分用あるいは特定の誰かの為に碗を制作します。陶土は赤土を使用します。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
 2. 課題の理解度
 3. 表現力（技法の特性を把握しているか）
 4. 完成度（仕上げの丁寧さ、機能性）
- 授業への取り組みと制作課題による総合評価

予習・復習

スクーリング前に、授業内容とテキスト『素材と手のトレーニング』、『土のメッセージ』をよく読んでスクーリング内容について理解を深めるようにしてください。技法・材料に関することや様々な専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。スクーリング終了後は、学んだ技法、制作手順や作品の写真、教員のアドバイスなどを「制作ノート」として整理しファイルしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』pp.70～89 ※わからない用語に関しては、テキスト陶芸①『素材と手のトレーニング』資料用語解説（pp.225～229）および陶芸②『土のメッセージ』の索引（pp.223～225）を参照してください。
------	--

課題

【事前課題】

1. 課題内容：テーマに沿った形をイメージし、スケッチブックなどにアイデアスケッチを数枚描く。普段使っている器や市販されている碗をよく観察する。碗のサイズ、口縁部や高台の造り、高台の径・高さなどのバランスに留意しきになる箇所を書き留めておく。※具体的な形が分かるように丁寧に描く。
2. 提出日：【a日程】11/9（土）、【b日程】11/16（土）
3. 提出先：スクーリング初日に持参すること

【スクーリングの課題】

テーマ： ロクロで作る形／碗

内容：電動ロクロによる水挽きと削り仕上げ

大きさ：焼成作品は口径12cm前後とする

陶土（一人あたり）：白土10kg

提出作品：2点以上

焼成作品（希望者のみ）：5点以内

釉薬：①黒マット釉、②イラボ釉、③白釉

焼成方法：酸化焼成

授業計画

【自宅学習】

事前課題

【スクーリング】

1日目

1講時～2講時 土練、水挽きデモンストレーション

3講時～5講時 水挽き

2日目

1講時～3講時 水挽き、削り

4講時～5講時 課題合評、掃除

受講にあたって

●持参物

事前課題・・・スクーリング初日に持参のこと

- 1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸I-1」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。
- 2 作業着
- 3 筆記用具
- 4 切り糸：ロクロ上で作品を切り離すため
- 5 ワイヤ：陶土を切るため

- 6 なめし皮：作品のふちを整えるため
- 7 削り用カンナ〔平線かきベラ等〕：高台を仕上げるため
- 8 竹ベラ：水挽き中に使用
- 9 スポンジ：水挽き中に使用
- 10 弓：陶土を切るのに使用
- 11 タオル2～3枚：竹べらの調湿用
- 12 カッターナイフ〔大〕：調整に使用
- 13 ビニールのゴミ袋〔大〕3～5枚：陶土や作品の乾燥を防ぐため
- 14 雑巾
- 15 マスク：掃除時のホコリ避け
- 16 布粘着テープ、新聞紙1日分：荷物梱包用
- 17 スケッチブック：事前課題

※4～8はairUシラバス「テキスト・教材学習」の「資料編・教材申込書」または、シラバス巻末【資料編・教材申込書】の「道具の一例」をご参照ください。

●諸経費

後日、以下の教材費を指定の口座から引き落とします。

陶土…赤土（信楽陶器工業協同組合製）10kg/1,200円

焼成費…1,500円

※この科目の作品は、希望者のみ焼成します。その際、焼成費がかかります。

陶芸作品送付用ダンボール（梱包材込み）…1箱／950円

※焼成希望者は、後日着払いにて返却しますので、返却用ダンボール箱を購入していただきます。

※金額は変更になる場合があります。

●その他

大学で準備するもの：手桶、栈板、亀板、たこ糸、竹、工具、土のう袋、電動ロクロ

注意事項

本科目には事前課題が設定されています。「課題」の項目を確認し、必ず指定日までに取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

S	陶芸Ⅰ－2 白い器/ ロクロ技法 科目コード： 64002
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	無 ※「陶芸Ⅰ－1」を履修済みであることが望ましい
開講日程・ 開講地・定員	陶芸Ⅰ－2(白い器/ロクロ技法)a 開催日程：2019年11月23日（土）～ 2019年11月24日（日）, 2020年1月11日（土）～ 2020年1月12日（日） 開催地：京都、受講料： ￥26,000、定員：25 陶芸Ⅰ－2(白い器/ロクロ技法)b 開催日程：2019年12月7日（土）～ 2019年12月8日（日）, 2020年1月25日（土）～ 2020年1月26日（日） 開催地：京都、受講料： ￥26,000、定員：25
担当者	西村充*, 田中良昭, 吉村敏治, 土谷徹

科目概要と到達目標

この科目では、電動ロクロによる水挽き（鉢の成形技法）を学びます。赤土に白釉を施釉するか、白化粧による刷毛目のいずれかを選択し、還元焼成によって生まれる白い表情の鉢を製作します。形の美しさに加え「何を盛るか」という事も大切な要素です。

前期2日間で土揉みから電動ロクロによる鉢の水挽き、削り仕上げ、化粧掛けを習得し、後期2日間では、窯講義の後、素焼の作品に施釉、窯詰め、還元焼成、窯出しを習得します。また、教員のワークショップにより表現方法も学びます。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 課題の理解度
3. 表現力（技法の特性を把握しているか）
4. 完成度（仕上げの丁寧さ、機能性）

授業への取り組みと制作課題による総合評価

予習・復習

スクーリング前に、授業内容とテキスト『素材と手のトレーニング』、『土のメッセージ』をよく読んでスクーリング内容について理解を深めるようにしてください。技法・材料に関することや様々な専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。スクーリング終了後は、学んだ技法、制作手順や作品の写真、教員のアドバイスなどを「制作ノート」として整理しファイルしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』 pp.70～89 ※わからない用語に関しては、テキスト陶芸①『素材と手のトレーニング』資料用語解説（pp.225～229）および陶芸②『土のメッセージ』の索引（pp.223～225）を
------	--

テキスト	参照してください。
参考文献・URL	無

課題

【事前課題】

1. 課題内容：テーマに沿った形をイメージし、スケッチブックなどにアイディアスケッチを数枚描く。普段使っている器や市販されている碗をよく観察する。碗のサイズ、口縁部や高台の造り、高台の径、高さなどのバランスに留意し気になる箇所を書き留めておく。※具体的な形がわかるように丁寧に描く。
2. 提出日：【a日程】11/23（土）【b日程】12/7（土）
3. 提出先：スクーリング初日に持参

【スクーリングの課題】

テーマ：ロクロで作る形／鉢、白化粧による加飾

内容：電動ロクロによる水挽きと削り仕上げ、白釉か白化粧刷毛目を選択

大きさ：焼成作品は口径20cm前後とする

陶土（一人あたり）：赤土10kg

提出作品：2点以内

焼成作品：5点以内

釉薬：土灰釉、白釉

焼成方法：還元焼成

授業計画

【自宅学習】

事前課題

【スクーリング】

<前期>

1日目

1講時～2講時 課題説明、土練、道具の説明、水挽きデモンストレーション

3講時～5講時 水挽き

2日目

1講時～3講時 水挽き、削り

4講時～5講時 課題合評

<後期>

3日目

1講時 窯講義

2講時～4講時 施釉説明、施釉

5講時 窯詰め

4日目

1講時 教員ワークショップ

2講時～5講時 還元焼成実習、水挽き・自由制作（焼成なし）、道具作り（ダンゴゴテ）

【フォローアップについて】

フォローアップとしてスクーリング<後期>終了の翌日、希望者は担当教員の指導のもとで窯出しをす

ることができます。フォローアップに参加できない方は研究室で課題作品を窯出しの上、梱包して着払いにて返却します。※フォローアップは、希望者のみの自由参加です。

3～5講時 窯出し、担当教員による講評
※窯の冷え具合によって窯出しの時間は変動します。

●持参物

- 1 作業着：窯出し時は綿素材の長袖を着用のこと
- 2 純綿の軍手（2組）：窯出し時に二重にして使用

受講にあたって

●持参物

事前課題・・・スクーリング初日に持参のこと

【前期】

- 1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸I-2」のページ）、またはairシラバス該当科目を出力し持参のこと。
 - 2 作業着
 - 3 筆記用具
 - 4 切り糸：ロクロ上で作品を切り離すため
 - 5 ワイヤー：陶土を切るため
 - 6 なめし皮：作品のふちを整えるため
 - 7 削り用カンナ（平線かきベラ等）：高台を仕上げるため
 - 8 竹ベラ：水挽き中に使用
 - 9 弓：陶土を切るのに使用
 - 10 スポンジ：水挽き・施釉時に使用
 - 11 カッターナイフ〔大〕：道具作り・調整に使用
 - 12 タオル2～3枚：調湿用
 - 13 ビニールのゴミ袋〔大〕3～5枚：陶土や作品の乾燥を防ぐため
 - 14 雑巾2～3枚
 - 15 マスク：掃除時のホコリ避け
 - 16 布粘着テープ、新聞紙1日分：荷物梱包用
 - 17 スケッチブック：事前課題
- ※4～8はairUシラバス「テキスト・教材学習」の「資料編・教材申込書」または、シラバス巻末【資料編・教材申込書】の「道具の一例」をご参照ください。

【後期】

- 1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸I-2」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。
- 2 作業着：窯出し時は綿素材の長袖を着用のこと
- 3 筆記用具
- 4 切り糸：ロクロ上で作品を切り離すため
- 5 ワイヤー：陶土を切るため
- 6 なめし皮：作品のふちを整えるため
- 7 削り用カンナ（平線かきベラ等）：高台を仕上げるため
- 8 竹ベラ：水挽き中に使用
- 9 弓：陶土を切るのに使用
- 10 スポンジ：水挽き・施釉時に使用
- 11 カッターナイフ〔大〕：道具作り・調整に使用

- 12 タオル2～3枚：調湿用
 - 13 ビニールのゴミ袋〔大〕3～5枚：陶土や作品の乾燥を防ぐため
 - 14 雑巾2～3枚
 - 15 マスク：掃除時のホコリ避け
 - 16 布粘着テープ、新聞紙1日分：荷物梱包用
 - 17 彩色筆：釉掛け時の補修用
 - 18 純綿の軍手2組：窯出し時に二重にして使用
 - 18 グラフ用紙（方眼紙）：窯スケジュール用
- ※4～8はairUシラバス「テキスト・教材学習」の「資料編・教材申込書」または、シラバス巻末【資料編・教材申込書】の「道具の一例」をご参照ください。

●諸経費

後日、以下の教材費を指定の口座から引き落とします。

陶土…赤土10kg／800円

陶芸作品送付用ダンボール（梱包材込み）…1箱／950円

※課題作品は後日着払いにて返却しますので、返却用ダンボール箱を購入していただきます。

※フォローアップ参加者は、各自で梱包し返送の作業を行ってください。その際、ダンボール箱が必要な方は後期初日の13：00までにお申し込みください。

※金額は変更になる場合があります。

●その他

大学で準備するもの：手桶、栈板、亀板、たこ糸、竹、釉薬、工具、土のう袋、電動ロクロ、白化粧、荒材、ベルトサンダー

注意事項

本科目には事前課題が設定されています。「課題」の項目を確認し、必ず指定日までに取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

S	陶芸Ⅱ－1 机上のオブジェ/石膏型 科目コード： 64003
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	無
開講日程・ 開講地・定員	陶芸Ⅱ－1(机上のオブジェ/石膏型)a 開催日程：2019年6月22日（土）～ 2019年6月23日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：25 陶芸Ⅱ－1(机上のオブジェ/石膏型)b 開催日程：2019年6月29日（土）～ 2019年6月30日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：25
担当者	西村充*、中野悟朗

科目概要と到達目標

この科目では、押し型成形について学ぶことで石膏を扱う基礎的な技術を習得します。陶芸では器だけでなく机の上で使う様々な文房具も作られています。その中からペーパーウェイトにしぼってかたちを考えます。型作りは、まず陶土で原型を制作し、それを二つ割りの石膏型（外型）に型取りします。完成した型の内側に柔らかい粘土を押し付け、土がはりついた型を合わせて作品の成形をします。作品の原型のかたちは、二つ割りの型でできることに限定しますが、細部の設計・アイデア・モチーフの選択やデフォルメは、各自の自由な発想を基にします。押し型技法の有効性を用いて、楽しみながら使うことができる道具にすることが目標です。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
 2. 課題の理解度
 3. 発想力（独自の視点を持っているか）
 4. 表現力（技法の特性を把握し表現しているか）
 5. 完成度（仕上げの丁寧さ、機能性）
- 授業への取り組みと制作課題による総合評価

予習・復習

スクーリング前に、授業内容とテキスト『素材と手のトレーニング』、『土のメッセージ』をよく読んで、スクーリング内容について理解を深めるようにしてください。技法・材料に関することや様々な専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。スクーリング終了後は学んだ技法、制作手順や作品の写真、教員のアドバイスなどを「制作ノート」として整理しファイルしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』 ※わからない用語に関しては、テキスト陶芸①『素材と手のトレーニング』資料用
------	---

テキスト	語解説（pp.225～229）および陶芸②『土のメッセージ』の索引（pp.223～225）を参照してください。
参考文献・URL	無

課題

【事前課題】

1. 課題内容：ペーパーウェイトのアイディアスケッチをスケッチブックなどに数枚描き、そのうちの1点をもとに陶土で原型（塊の白土で縦10cm×横10cm×高さ10cm以内）を制作し、アイディアスケッチと共にスクーリング初日に持参すること。原型の仕上げはスクーリング初日に行うのでラフな原型でよい。ワイヤーで切断できるくらいの硬さにして持参する。
※柔らかすぎると持参する際に形がゆがむ、硬すぎると修正ができないので注意する。形が細長い、あるいは薄くて中身が空洞にできないものは不可。
2. 提出日：【a日程】6/22（土）【b日程】6/29（土）
3. 提出先：スクーリング初日に持参すること（授業内で使用）

【スクーリングの課題】

テーマ：机上のオブジェ（ペーパーウェイト）

内容：白土でペーパーウェイトの原型を作り、石膏で二つ割の型を取る。型押しで制作する

大きさ：立体として考えたとき、縦・横・高さのそれぞれの一辺は5cm以上10cm以内とする

陶土（一人あたり）：石膏4kg、白土5kg（原型1kg、作品用2kg、壁用2kg）

提出作品：2点（一つの石膏型から制作）

焼成作品（希望者のみ）：2点

釉薬：土灰釉、白釉、無釉（焼き締め）

焼成方法：酸化焼成

授業計画

【自宅学習】

事前課題

【スクーリング】

<1日目>

1講時 石膏型取りデモンストレーション

2講時 原型仕上げ

3講時～5講時 石膏型取り

<2日目>

1講時～3講時 型おこし

4講時～5講時 課題合評

受講にあたって

●持参物

事前課題…スクーリング初日に持参のこと

1『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸II-1」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。

2 作業着

3 筆記用具

- 4 スケッチブック：事前課題
- 5 竹ベラ：土壁を作る時に使用
- 6 ワイヤー：陶土を切るため
- 7 削り用カンナ（平線かきベラ等）：石膏型・作品仕上げ用
- 8 弓：陶土を切るのに使用
- 9 筆ペン：当たり線を付けるため
- 10 カッターナイフ〔大〕：石膏を削るため
- 11 ハサミ：ファイルカット用
- 12 養生テープもしくはビニールテープ：ファイル固定用
- 13 彫刻刀セット：石膏型を彫るため、図工用3～5本セット程度
- 14 筆（中）1本：石膏型制作用
- 15 スポンジ
- 16 クリアファイル1枚：購買部（ADストア）にて購入できます。
- 17 タオル 2 ～3枚：調湿用
- 18 雑巾
- 19 ビニールのゴミ袋〔大〕2枚：作品の乾燥を防ぐため
- 20 薄手のビニール手袋：石膏使用時、じかに手でふれないため
- 21 マスク：石膏使用時や掃除時のホコリ避け
- 22 布粘着テープ、新聞紙1日分：荷物梱包用
- 23 ペーパーウェイトの原型：事前課題

※6～8はairUシラバス「テキスト・教材学習」の「資料編・教材申込書」または、シラバス巻末【資料編・教材申込書】の「道具の一例」をご参照ください。

●諸経費

後日、以下の教材費を指定の口座から引き落とします。

○陶土…白土5kg／400円

○焼成費…1,000円

※この科目の作品は、希望者のみ焼成します。その際、焼成費がかかります。

○陶芸作品送付用ダンボール（梱包材込み）…1箱／950円

※焼成希望者は、後日着払いにて返却しますので、返却用ダンボール箱を購入していただきます。

※金額は変更になる場合があります。

●その他

大学で準備するもの：石膏、攪拌棒、ゴムベルト、手桶、木づち、酢、栈板、亀板、タタラ板、カリ石、竹、工具、土のう袋、ワイヤーブラシ、石膏ヤスリ、再生土、2リットルビーカー

注意事項

本科目には事前課題が設定されています。「課題」の項目を確認し、必ず指定日までに取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

S	陶芸Ⅱ－2 食卓の風景/ 石膏型 科目コード： 64004
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	無
開講日程・ 開講地・定員	陶芸Ⅱ－2(食卓の風景/石膏型)a 開催日程：2019年7月27日（土）～ 2019年7月28日（日）, 2019年9月7日（土）～ 2019年9月8日（日） 開催地：京都、受講料： ￥26,000、定員：25 陶芸Ⅱ－2(食卓の風景/石膏型)b 開催日程：2019年9月21日（土）～ 2019年9月22日（日）, 2019年10月26日（土）～ 2019年10月27日（日） 開催地：京都、受講料： ￥26,000、定員：25
担当者	西村充*、中野悟朗、土谷徹

科目概要と到達目標

この科目では、石膏型の外型と内型について学びます。第1課題では、原型を忠実に写し取り、薄く成形できることが特徴である泥漿鑄込成形の技法を用いてタンブラーを制作します。第2課題では、アルミホイルで原型を作り、押し型の技法で皿を制作します。前期2日間では外型で泥漿鑄込成型を学び、後期2日間では素焼をした作品に施釉・窯詰・還元焼成までの作品焼成に関する工程を学びます。また、内型で押し型の技法、釉薬講義、教員によるワークショップにより知識と表現方法についても学びます。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 課題の理解度
3. 発想力（柔軟性）
4. 表現力（技法の特性を把握し表現しているか）
5. 完成度（仕上げの丁寧さ）

授業への取り組みと制作課題による総合評価

予習・復習

スクーリング前に、授業内容とテキスト『素材と手のトレーニング』、『土のメッセージ』をよく読んで、スクーリング内容について理解を深めるようにしてください。技法・材料に関することや様々な専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。スクーリング終了後は学んだ技法、制作手順や作品の写真、教員のアドバイスなどを「制作ノート」として整理しファイルしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』 ※わからない用語に関しては、テキスト陶芸①『素材と手のトレーニング』資料用
------	---

テキスト	語解説（pp.225～229）および陶芸②『土のメッセージ』の索引（pp.223～225）を参照してください。
参考文献・URL	無

課題

【事前課題】

- 1 課題内容：自身が使ってみたいタンブラー（取手不可）のアイデアスケッチを数枚描き、その内の1点をもとに陶土で原型（塊の陶土で直径8cm以内、高さ10cm以内）を制作し、アイデアスケッチと共にスクーリング初日に持参すること。原型はスクーリング初日に調整するので乾燥状態に留意すること。移動中に変形せず、指で押して少し凹む程度とする。
※原型は外型から上方向に作品を取り外せる形とする。
※原型は指で押して少し凹む程度、あるいはワイヤーで切断できるくらいの硬さにしてから持参すること。
- 2 提出日：【a日程】7/27（土）【b日程】9/21（土）
- 3 提出先：スクーリング初日に持参すること（授業内で使用）

【スクーリングの課題】

<前期>

■第1課題 泥漿鑄込成形

テーマ：外型による鑄込成形

内容：タンブラー（取手のないもの）

大きさ：直径8cm以内、高さ10cm以内

陶土（一人あたり）：石膏2kg、磁土2kg（泥漿用）、白土2kg（原型用・壁用）

提出作品：3点

焼成作品：3点

■焼成

テーマ：型成形した作品に施釉し、電気窯で焼成

焼成作品：それぞれの提出作品数に準ずる

釉薬：土灰釉、伊羅保釉、青白磁

焼成方法：還元焼成

<後期>

■第2課題 押し型成形

テーマ：内型による押し型成形

内容：石膏型の型押しによる制作を行う。石膏型は、アルミホイルで原型を作り、石膏取りする

大きさ：縦12cm×横12cm×高さ3cm以内

陶土（一人あたり）：白土3kg（作品用1kg、壁用1kg）、石膏1kg

授業計画

【自宅学習】

事前課題

【スクーリング】

<前期>

1日目

- 1講時 課題説明、石膏型取りデモ
- 2講時 泥漿準備
- 3講時 原型仕上げ
- 4講時～5講時 鋳込型制作

2日目

- 1講時～3講時 泥漿調整、第1課題制作
- 4講時～5講時 課題合評

<後期>

3日目

- 1講時～2講時 作品の仕上げ、泥漿鋳込みによる制作
- 3講時～5講時 施釉、本焼窯詰め

4日目

- 1講時 釉薬講義
- 2講時～5講時 還元焼成実習、第2課題制作（焼成なし）

【フォローアップについて】

フォローアップとしてスクーリング<後期>終了の翌日、希望者は担当教員の指導のもとで窯出しをすることができます。フォローアップに参加できない方は研究室で課題作品を窯出しの上、梱包して着払いにて返却します。※フォローアップは、希望者のみの自由参加です。

3～5講時 窯出し、担当教員による講評
※窯の冷え具合によって窯出しの時間は変動します。

●持参物

- 1 作業着：窯出し時は綿素材の長袖を着用のこと
- 2 純綿の軍手（2組）：窯出し時に二重にして使用

受講にあたって

●持参物

事前課題・・・スクーリング初日に持参のこと

【前期】

- 1『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸II-2」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。
- 2 作業着
- 3 筆記用具
- 4 竹ベラ：土壁を作る時に使用
- 5 ワイヤー：陶土を切るため
- 6 削り用カンナ（平線かきベラ等）：石膏型・作品仕上げ用
- 7 弓：陶土を削るのに使用
- 8 カッターナイフ〔大〕：石膏型を削るため
- 9 タオル：2～3枚、調湿用
- 10 雑巾
- 11 ビニールのゴミ袋〔大〕2枚、〔中〕2枚：作品の乾燥を防ぐためや再生土を入れるため
- 12 マスク：石膏使用時や掃除時のホコリ避け
- 13 クリアファイル2枚：購買部（ADストア）にて購入できます
- 14 筆（中）2本：石膏型制作用、釉掛け

- 15 スケッチブック：事前課題
- 16 薄手のビニール手袋：石膏使用時、じかに手でふれないため
- 17 ハサミ：ファイルカット用
- 18 養生テープもしくはビニールテープ：ファイル固定用
- 19 布粘着テープ、新聞紙1日分：荷物梱包用
- 20 タンブラーの原型：事前課題

【後期】

- 1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸II-2」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。
- 2 作業着：窯出し時は綿素材の長袖を着用のこと
- 3 筆記用具
- 4 竹ベラ：土壁を作る時に使用
- 5 ワイヤー：陶土を切るため
- 6 削り用カンナ（平線かきベラ等）：石膏型・作品仕上げ用
- 7 弓：陶土を切るのに使用
- 8 カッターナイフ〔大〕：石膏型を削るため
- 9 タオル2〜3枚：調湿用
- 10 雑巾
- 11 ビニールのゴミ袋〔大〕2枚、〔中〕2枚：作品の乾燥を防ぐためや再生土を入れるため
- 12 マスク：石膏使用時や掃除時のホコリ避け
- 13 布粘着テープ、新聞紙1日分：荷物梱包用
- 14 筆：石膏型制作用、釉掛け
- 15 スポンジ：釉掛け時、高台についた釉を取るため
- 16 純綿の軍手2組：窯出し時に二重にして使用
- 17 グラフ用紙（方眼紙）：窯スケジュール用
- 18 ハサミ：ファイルカット用
- 19 養生テープもしくはビニールテープ：ファイル固定用

※前期の4〜7及び後期の4〜7は陶芸コース教材セットに含まれています。購入方法はairUシラバス「テキスト・教材学習」の「資料編・教材申込書」または、シラバス巻末【資料編・教材申込書】をご参照ください。

●諸経費

後日、以下の教材費を指定の口座から引き落とします。

○陶土…白土5kg／400円

○陶芸作品送付用ダンボール（梱包材込み）…1箱／950円

※課題作品は後日着払いにて返却しますので、返却用ダンボール箱を購入していただきます。

※フォローアップ参加者は、各自で梱包し返送の作業を行ってください。その際、ダンボール箱が必要な方は後期初日の13：00までにお申し込みください。

※金額は変更になる場合があります。

●その他

大学で準備するもの：磁土、石膏、攪拌棒、ゴムベルト、手桶、木づち、篩、酢、栈板、亀板、タタラ板、カリ石鹼、釉薬、珪酸ソーダ、杓、じょうご、竹、工具、土のう袋、ワイヤーブラシ、石膏カンナ、再生土、攪拌機、乳鉢、2ℓビーカー、アルミホイル

注意事項

本科目には事前課題が設定されています。「課題」の項目を確認し、必ず指定日までに取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

S	陶芸Ⅲ－1 機能からの発想/ 手びねり技法 科目コード： 64005
配当年次	2年次～
単位数	1
履修の前提条件	無
開講日程・ 開講地・定員	陶芸Ⅲ－1(機能からの発想/手びねり技法)a 開催日程：2019年5月11日（土）～ 2019年5月12日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：25 陶芸Ⅲ－1(機能からの発想/手びねり技法)b 開催日程：2019年5月25日（土）～ 2019年5月26日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：25
担当者	西村充*、堀香子、田中哲也

科目概要と到達目標

手びねり技法（紐作り）の特徴は、比較的成形の自由度が高く、自分のペースで自らの心情を素直に表現しやすいことです。頭の中に描いた形をスケッチで確認し、マケット（試作のための小品）によって立体化し、その構造を理解してください。手びねり技法ならではの形の変化や、土の表情の変化を確認します。注ぐという機能に焦点をあて、美しい造形とのバランスを考えて作りましょう。この科目では、技法にあった形を模索します。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 課題の理解度
3. 発想力（アイデアの豊富さ、独自の視点を持っているか）
4. 表現力（土の特性、技法の特性を把握し表現しているか）
5. 完成度（仕上げの丁寧さ、機能性）

授業への取り組みと制作課題による総合評価

予習・復習

スクーリング前に、授業内容とテキスト『素材と手のトレーニング』、『土のメッセージ』をよく読んで、スクーリング内容について理解を深めるようにしてください。技法・材料に関することや様々な専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。スクーリング終了後は、学んだ技法、制作手順や作品の写真、教員のアドバイスなどを「制作ノート」として整理しファイルしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』第2部「手びねり」、第6部「飾」 ※わからない用語に関しては、テキスト陶芸①『素材と手のトレーニング』資料用語解説（pp.225～229）および陶芸②『土のメッセージ』の索引（pp.223～225）を参照してください。
------	--

課題

【事前課題】

1. 課題：注ぐという機能について考察し、形をイメージして他方向から完成予想図（アイデアスケッチ）をスケッチブックなどに数枚描くこと。
※ 初日に作品のスケッチからマケット（試作のための小作品）を制作し、その後制作を行うので、具体的な形がわかるように丁寧に描くこと。
2. 提出日：【a日程】5/11（土）【b日程】5/25（土）
3. 提出先：スクーリングの初日に持参すること（授業内で使用）

【課題内容】

テーマ：注ぐ

内容：手びねり技法で「注ぐ」をテーマに制作。

まず、何を注ぎたいかを考えて、形を導き出しましょう。既成の形にとらわれることなく、機能と自分のイメージとの美しいバランスを考えて自由に制作します。

大きさ：縦24cm×横24cm×高さ21cm以内

陶土（一人あたり）：3割赤荒土10kg

提出作品：1点

焼成作品（希望者のみ）：1点

加飾方法：釉薬（土灰釉、チタン結晶釉、無釉（焼き締め））

焼成方法：酸化焼成

※手びねり技法については、airUシラバス「テキスト・教材学習」の「資料編・教材申込書」または、シラバス巻末【資料編・教材申込書】に収録されている「手びねりについて」をご参照ください。

授業計画

【自宅学習】

事前課題

【スクーリング】

1日目

1講時～2講時 課題説明、マケット制作

3講時～5講時 制作

2日目

1講時～3講時 制作

4講時～5講時 課題合評

受講にあたって

●持参物

事前課題・・・スクーリング初日に持参のこと

1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸III-1」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。

2 作業着

3 筆記用具：鉛筆、定規、コンパスなど

- 4 スケッチブック：事前課題
- 5 制作に必要な道具：剣先、針、竹べら、弓、ワイヤー切り糸、なめし皮など
- 6 カッターナイフ（大）
- 7 曲尺（長さ30cm）：金属L字型定規
- 8 筆（中）2本：ドベ用
- 9 スポンジ
- 10 タオル：裁断可能なもの2枚（陶土や作品の乾燥を防ぐため）
- 11 ビニール袋：ゴミ袋大・小各4枚（陶土や作品の乾燥を防ぐため）
- 12 雑巾
- 13 マスク：掃除用
- 14 布粘着テープ、新聞紙1日分：荷物梱包用
- 15 はさみ

●諸経費

後日、以下の教材費を指定の口座から引き落とします。

○陶土…3割赤荒土10kg／1000円

○焼成費…1,000円

※この科目の作品は、希望者のみ焼成します。その際、焼成費がかかります。

○ 陶芸作品送付用ダンボール（梱包材込み）…1箱／950円

※焼成希望者は、後日着払いにて返却しますので、返却用ダンボール箱を購入していただきます。

※金額は変更になる場合があります。

●その他

大学で準備するもの：手口クロ、栈板、亀板、手桶、霧吹き、土のう袋、ケイカルボード、ドライヤー、ボール（小）

注意事項

本科目には事前課題が設定されています。「課題」の項目を確認し、必ず指定日までに取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

S	陶芸Ⅲ－2 円柱からの展開／手びねり技法 科目コード： 64006
配当年次	2年次～
単位数	2
履修の前提条件	無
開講日程・ 開講地・定員	陶芸Ⅲ－2(円柱からの展開/手びねり技法)a 開催日程：2019年6月8日（土）～ 2019年6月9日（日）, 2019年7月6日（土）～ 2019年7月7日（日） 開催地：京都、受講料： ￥26,000、定員：25 陶芸Ⅲ－2(円柱からの展開/手びねり技法)b 開催日程：2019年6月15日（土）～ 2019年6月16日（日）, 2019年7月20日（土）～ 2019年7月21日（日） 開催地：京都、受講料： ￥26,000、定員：25
担当者	西村充*、堀香子、田中哲也、土谷徹

科目概要と到達目標

手びねり技法（紐作り）は古代からある最も素朴な技法です。その表現は比較的自由度が高く、大きい作品の成形も可能です。前期2日間では、土紐による円柱の基本成形を学びます。また、作品の大きさにも挑み、制作過程における陶土の硬さの変化を感じとり制作に生かしていきます。後期2日間では、染付（呉須を用いた下絵付け）による装飾を学びます。また、焼成実習により施釉、窯詰め、焼成、窯出しという工程を把握し、還元焼成を習得します。手びねり技法による球体の成形方法も習得します。また、教員のワークショップを通して、表現方法も学びます。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 課題の理解度
3. 発想力（アイデアの豊富さ、独自の視点を持っているか）
4. 表現力（技法の特性を把握し表現しているか）
5. 完成度（仕上げの丁寧さ）

授業への取り組みと作品による総合評価

予習・復習

スクーリング前に、授業内容とテキスト『素材と手のトレーニング』、『土のメッセージ』をよく読んで、スクーリング内容について理解を深めるようにしてください。技法・材料に関することや様々な専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。スクーリング終了後は、学んだ技法、制作手順や作品の写真、教員のアドバイスなどを「制作ノート」として整理しファイルしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』第2部「手びねり」、第6部「飾」
------	----------------------------------

テキスト	※わからない用語に関しては、テキスト陶芸①『素材と手のトレーニング』資料用語解説（pp.225～229）および陶芸②『土のメッセージ』の索引（pp.223～225）を参照してください。
参考文献・URL	無

課題

【事前課題】

1. 課題内容：

① 課題のテーマをイメージし、多方向から完成予想図（アイデアスケッチ）をスケッチブックなどに数枚描くこと。

② 呉須による装飾に必要な資料を用意し、作品の完成予想図を具体的な形がわかるように丁寧に描くこと。

2. 提出日：【a日程】① 6/8（土）② 7/6（土）【b日程】① 6/15（土）② 7/20（土）

3. 提出先：スクーリング初日に持参すること（授業内で使用）

【スクーリング課題】

■（前期）第1課題

テーマ：円柱からの展開

内容：手びねり技法による、円柱の成形を習得する。

まず、規定サイズ通りに円柱を制作します。

その後、自分のイメージに沿って自由に形を展開させます。

（例：切る・貼る・ふくらませる・穴をあけるetc）

大きさ：〔円柱〕 直径14cm×高さ37cm、1点

陶土（一人あたり）：白荒土15kg（第1・第2課題分）

提出作品：1点

焼成作品（素焼）：1点

■（後期）第1課題

テーマ：装飾と仕上げ、焼成

内容：本焼き後の作品をイメージしながら装飾、仕上げをする。

：呉須を使って、前期で展開した形に合う装飾を施します。

筆による絵付けに限らず、スポンジやマスキングテープなど自由に道具を選ぶことができます。

：施釉等、素焼き後の装飾を習得する。

：最終段階の仕上げをする。

：窯詰め、窯出し、還元焼成のやり方を学ぶ。

提出作品：1点

焼成作品：1点

釉薬：土灰釉、伊羅保釉

焼成方法（本焼）：還元焼成

■（後期）第2課題

テーマ：球体

内容：球体を制作。（可能な限り真球に近い形を目指す。）

大きさ：直径20cm

陶土（一人あたり）：白荒土15kg（第1・第2課題分）

提出作品：1点

焼成作品：焼成なし

※手びねり技法については、airUシラバス「テキスト・教材学習」の「資料編・教材申込書」または、

シラバス巻末【資料編・教材申込書】に収録されている「手びねりについて」をご参照ください。

授業計画

【自宅学習】

事前課題

【スクーリング】

<前期>

1日目

1講時 課題説明

2講時～5講時 第1課題制作

2日目

1講時～5講時 第1課題制作、課題合評

<後期>

3日目

1講時 装飾・施釉説明

2講時～5講時 装飾・施釉、窯詰め

4日目

1講時 陶土講義

2講時 教員ワークショップ

3講時～5講時 第2課題制作（焼成なし）

【フォローアップについて】

フォローアップとしてスクーリング<後期>終了の翌日、希望者は担当教員の指導のもとで窯出しをすることができます。フォローアップに参加できない方は研究室で課題作品を窯出しの上、梱包して着払いにて返却します。※フォローアップは、希望者のみの自由参加です。

3～5講時 窯出し、担当教員による講評

※窯の冷え具合によって窯出しの時間は変動します。

●持参物

1 作業着：窯出し時は綿素材の長袖を着用のこと

2 純綿の軍手（2組）：窯出し時に二重にして使用

受講にあたって

●持参物

事前課題・・・スクーリング初日に持参のこと

【前期】

1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸III-2」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。

2 作業着

3 筆記用具：鉛筆、定規、コンパスなど

- 4 スケッチブック：事前課題
- 5 制作に必要な道具：剣先、針、竹ペラ、弓、ワイヤー切り糸、なめし皮など
- 6 カッターナイフ（大）：制作用
- 7 曲尺（長さ30cm）：金属L字型定規
- 8 スポンジ：装飾、施釉用
- 9 筆（中）1本：ドベ塗り、施釉用など
- 10 タオル：裁断可能なもの2枚、陶土や作品の乾燥を防ぐため
- 11 ビニール袋：ゴミ袋大・小 各4枚、陶土や作品の乾燥を防ぐため
- 12 雑巾
- 13 マスク：掃除用
- 14 布粘着テープ、新聞紙1日分：荷物梱包用
- 15 はさみ

【後期】

- 1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸III-2」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。
- 2 筆記用具：鉛筆、定規、コンパスなど
- 3 スケッチブック：事前課題
- 4 制作に必要な道具：剣先、針、竹ペラ、弓、ワイヤー切り糸、なめし皮など
- 5 カッターナイフ（大）：制作用
- 6 曲尺（長さ30cm）：金属L字型定規
- 7 スポンジ：装飾、施釉用
- 8 マスキングテープ：装飾用
- 9 筆（中）1本：ドベ塗り、施釉用など
- 10 タオル：裁断可能なもの2枚（陶土や作品の乾燥を防ぐため）
- 11 ビニール袋：ゴミ袋大・小 各4枚（陶土や作品の乾燥を防ぐため）
- 12 雑巾
- 13 マスク：掃除用
- 14 布粘着テープ、新聞紙1日分：荷物梱包用
- 15 筆（大・小）数本と平刷毛：絵付け用（呉須）
- 16 乳鉢（直径15cm）と乳棒：絵付け用（呉須を擦る）、購買部（ADストア）にて購入できます。
- 17 絵の具を薄めるための容器（使い捨てのプラスチックコップ（100cc～200cc）など数個）：絵付け用（呉須の濃さを調整する）
- 18 グラフ用紙（方眼紙）：窯スケジュール用
- 19 はさみ

●諸経費

後日、以下の教材費を指定の口座から引き落とします。

○陶土…白荒土15kg／1,500円

○陶芸作品送付用ダンボール（梱包材込み）…1箱／950円

※課題作品は後日着払いにて返却しますので、返却用ダンボール箱を購入していただきます。

※フォローアップ参加者は、各自で梱包し返送の作業を行ってください。その際、ダンボール箱が必要な方は後期初日の13：00までにお申し込みください。

※金額は変更になる場合があります。

●その他

大学で準備するもの：手ロクロ、亀板、手桶、バーナー、撥水剤、撥水剤用の筆、工具、釉薬、土のう袋、ケイカルボード、たたき板の材料、呉須、ドライヤー

注意事項

本科目には事前課題が設定されています。「課題」の項目を確認し、必ず指定日までに取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

S	陶芸Ⅳ－1 面による構成 / タタラ技法 科目コード： 64007
配当年次	2年次～
単位数	1
履修の前提条件	無
開講日程・ 開講地・定員	陶芸Ⅳ－1(面による構成/タタラ技法)a 開催日程：2020年1月18日（土）～ 2020年1月19日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：25 陶芸Ⅳ－1(面による構成/タタラ技法)b 開催日程：2020年2月22日（土）～ 2020年2月23日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：25
担当者	西村充*、竹村智之、嶋田ケンジ

科目概要と到達目標

タタラ技法の特徴は、タタラ板という道具を使用することにより、容易に同じ厚みの板状の陶土ができることです。厚紙を補強材としたタタラ技法と蓋物の基礎を学びます。きめの細かい上信楽土を使い組み立てる前に土の板を曲げたり、軟らかい内に貼り合わせた形を変形させるなど曲面を持つ箱の成形方法を学びます。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 課題の理解度
3. 発想力（アイデアの豊富さ、独自の視点を持っているか）
4. 表現力（技法の特性を把握し表現しているか）
5. 完成度（仕上げの丁寧さ）

授業への取り組みと制作課題による総合評価

予習・復習

スクーリング前に、授業内容とテキスト『素材と手のトレーニング』、『土のメッセージ』をよく読んで、スクーリング内容について理解を深めるようにしてください。技法・材料に関することや様々な専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。スクーリング終了後は学んだ技法、制作手順や作品の写真、教員のアドバイスなどを「制作ノート」として整理しファイルしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』第4部「タタラ」 ※わからない用語に関しては、テキスト陶芸①『素材と手のトレーニング』資料用語解説（pp.225～229）および陶芸②『土のメッセージ』の索引（pp.223～225）を参照してください。
参考文献・URL	無

課題

【事前課題】

1. 課題内容：各課題のテーマをイメージし、多方向から完成予想図（アイデアスケッチ）をスケッチブックなどに数枚描くこと。

※具体的な形がわかるように丁寧に描くこと。

2. 提出日：【a日程】2020/1/18（土） 【b日程】2020/2/22（土）

3. 提出先：スクーリング当日に持参すること（授業内で使用）

【スクーリングの課題】

テーマ：蓋物

内容：茶筒型・かまぼこ型・扇型など曲面を持つ蓋物を作る。

厚紙（FCボール紙）を補助教材として用いて直方体を制作する。

任意の高さで切離し、蓋と身とにし「キ」を付け蓋物に仕上げます。

大きさ：20×20×15cm、厚さ1cm（向きは問いません）

陶土（一人あたり）：上信楽土5kg

提出作品：1点

焼成作品（希望者のみ）：1点

釉薬：土灰釉、白釉、無釉（焼き締め）

焼成方法：酸化焼成

授業計画

【自宅学習】

事前課題

【スクーリング】

1日目

1講時 課題説明・デモンストレーション

2講時～5講時 制作

2日目

1講時～3講時 制作

4講時～5講時 課題合評

受講にあたって

●持参物

事前課題…スクーリング初日に持参のこと

1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸IV-1」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。

2 作業着

3 筆記用具：鉛筆、定規など

4 スケッチブック：事前課題

5 制作に必要な道具：剣先、針、竹べら、弓、ワイヤー切り糸、なめし皮など

6 カッターナイフ（大）

7 はさみ

- 8 曲尺（長さ30cm）：金属L字型定規
- 9 養生テープ
- 10 セロテープ
- 11 ドベ入れ容器とドベ用筆：ドベ塗り用（タッパなど）
- 12 布：裁断可能で45cm以上のもの、Tシャツのように伸縮性のある生地のものであれば持参。土を板に伸ばすときに使用し、型と土が付かないように間に挟む布のたわみを利用して曲面を作る。
- 13 スポンジ：装飾用※できれば硬質ウレタン製
- 14 タオル（裁断可のもの）：陶土や作品の乾燥を防ぐため
- 15 ビニール袋（ゴミ袋大・小各4枚）：陶土や作品の乾燥を防ぐため
- 16 雑巾
- 17 マスク：掃除用
- 18 布粘着テープ、新聞紙1日分：荷物梱包用
- 19 FCボール紙：購買部（ADストア）にて購入できます。

●諸経費

当日、以下の費用をご用意ください※購買部（ADストア）にて購入できます

○FCボール紙（60cm～80cm、2mm厚）…195円

後日、以下の教材費を指定の口座から引き落とします。

○陶土…上信楽5kg／400円

○焼成費…1,000円

※この科目の作品は、希望者のみ焼成します。その際、焼成費がかかります。

○陶芸作品送付用ダンボール（梱包材込み）…1箱／950円

※焼成希望者は、後日着払いにて返却しますので、返却用ダンボール箱は購入していただきます。

※金額は変更になる場合があります。

●その他

大学で準備するもの：タタラ板（5mm、7mm）、栈板、亀板、ローラー、塩ビパイプ、土のう袋、ケイカルボード、カッティングボード

注意事項

本科目には事前課題が設定されています。「課題」の項目を確認し、必ず指定日までに取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

S	陶芸Ⅳ－2 空間の演出 / タタラ技法 科目コード： 64008
配当年次	2年次～
単位数	2
履修の前提条件	無
開講日程・ 開講地・定員	陶芸Ⅳ－2(空間の演出/タタラ技法)a 開催日程：2019年8月24日（土）～ 2019年8月25日（日）, 2019年10月12日（土）～ 2019年10月13日（日） 開催地：京都、受講料： ￥26,000、定員：25 陶芸Ⅳ－2(空間の演出/タタラ技法)b 開催日程：2019年11月2日（土）～ 2019年11月3日（日）, 2019年12月14日（土）～ 2019年12月15日（日） 開催地：京都、受講料： ￥26,000、定員：25
担当者	西村充*, 竹村智之、嶋田ケンジ、土谷徹

科目概要と到達目標

この科目では、タタラ技法について学びます。前期の第1課題ではタタラ技法による空間を演出するための光（照明器具）を制作します。空間と実体の関係を形の中で探ります。形とそこに開けられた穴、空間と洩れてくる光の調和がポイントとなるでしょう。後期の第3課題では、前期で学んだタタラ技法のまとめとしての学習をします。また、教員のワークショップにより表現方法も学びます。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 課題の理解度
3. 発想力（アイデアの豊富さ）
4. 表現力（技法の特性を把握し表現しているか）
5. 完成度（仕上げの丁寧さ）

授業への取り組みと制作課題による総合評価

予習・復習

スクーリング前に、授業内容とテキスト『素材と手のトレーニング』、『土のメッセージ』をよく読んで、スクーリング内容について理解を深めるようにしてください。技法・材料に関することや様々な専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。スクーリング終了後は、学んだ技法、制作手順や作品の写真、教員のアドバイスなどを「制作ノート」として整理しファイルしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』第4部「タタラ」、第6部「飾」 ※わからない用語に関しては、テキスト陶芸①『素材と手のトレーニング』資料用語解説（pp.225～229）および陶芸②『土のメッセージ』の索引（pp.223～225）を参照してください。
------	---

課題

【事前課題について】

1. 課題内容：

①各課題のテーマをイメージし、完成予想図（アイデアスケッチ）をスケッチブックなどに数枚描くこと。

※具体的な形がわかるように丁寧に描くこと。

第1課題：課題のテーマ「光の演出／灯」に基づき、作品のスケッチを描く。

第2課題：タタラ技法による器、作品のスケッチを描く。

②釉薬講義で使用するテストピース（40mm×40mm×8mm厚）を白土20個と赤土20個、および予備として数個を制作し、生あるいは素焼きの状態を持参すること。

※テストピース用石膏型の制作については、airUシラバス「テキスト・教材学習」の「資料編・教材申込書」または、シラバス巻末【資料編・教材申込書】をご参照ください。

2. 提出日：【a日程】① 第1課題：8/24（土）、第2課題：10/12（土）② テストピース8/24（土）

【b日程】① 第1課題：11/2（土）、第2課題：12/14日（土）② テストピース11/2（土）

3. 提出先：スクーリング初日に持参すること（授業内で使用）

【スクーリングの課題】

■（前期）第1課題

テーマ：光の演出／灯

内容：タタラ技法を使い、室内や屋外を問わず場所を設定し、空間を効果的に演出するための灯を制作する。白化粧による加飾は自由。

※ 学校で準備している光源（小さな電球とソケットのセット）を内部に入れるため、縦5cm、横5cm、高さ9cm（成形時）の空間を考慮しておく。LEDやろうソクなど 学校で準備している光源以外のものを個人で準備してもよい。

大きさ：縦25cm×横25cm×高さ25cm（成形時）以内。厚さは自由。

陶土（一人あたり）：3割赤荒土10kg（第1、第2課題分）

提出作品：1点

焼成作品：1点

釉薬：土灰釉、黒マット釉、無釉（焼き締め）

焼成方法：還元焼成

■（後期）第2課題

テーマ：タタラ技法による器

内容：使いやすく美しい器を学び、タタラ技法で制作する。

大きさ：制限なし

陶土（一人あたり）：3割赤荒土10kg（第1・第2課題分）

提出作品：1点以上

焼成方法：焼成なし

授業計画

【自宅学習】

事前課題

【スクーリング】

<前期>

1日目

1講時 課題説明、道具作り

2講時～5講時 第1課題制作

2日目

1講時～3講時 第1課題制作

4講時～5講時 合評

<後期>

3日目

1講時～2講時 釉薬講義、釉薬調合

3講時～5講時 加飾、施釉、窯詰め

4日目

1講時 教員ワークショップ

2講時～5講時 第2課題制作（焼成なし）

【フォローアップ】

フォローアップとしてスクーリング<後期>終了の翌日、希望者は担当教員の指導のもとで窯出しをすることができます。フォローアップに参加できない方は研究室で課題作品を窯出しの上、梱包して着払いにて返却します。※フォローアップは、希望者のみの自由参加です。

3～5講時 窯出し、担当教員による講評

※窯の冷え具合によって窯出しの時間は変動します。

●持参物

1 作業着：窯出し時は綿素材の長袖を着用のこと

2 純綿の軍手（2組）：窯出し時に二重にして使用

受講にあたって

●持参物

事前課題…スクーリング初日に持参のこと

【前期】

1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸IV-2」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。

2 作業着

3 筆記用具：鉛筆、定規など

4 スケッチブック：事前課題

5 制作に必要な道具：剣先、針、竹ベラ、弓、ワイヤー切り糸、なめし皮など

6 削り用カンナ

7 カッターナイフ

8 はさみ

9 曲尺（長さ30cm）：金属L字型定規、ボール紙切断時に使用、L字は直角を出すのに使用

10 ドベ入れ容器とドベ用筆：ドベ塗り用（小さいタッパーなどでも可）

11 筆（中1本）：白化粧用など

12 平刷毛：装飾用3～5cm巾程度のもの、白化粧用など

13 布：裁断可能で45cm以上のもの、Tシャツのように伸縮性のある生地のものであれば持参。土を板に伸

ばすときに使用し、型と土が付かないように間に挟む布のたわみを利用して曲面を作る。

14 スポンジ：装飾、施釉用

15 タオル：裁断可のもの、陶土や作品の乾燥を防ぐため

16 ビニール袋：ゴミ袋大・小 各4枚、陶土や作品の乾燥を防ぐため

17 雑巾

18 マスク：掃除用

19 布粘着テープ等（テープの上に貼れるテープ）、新聞紙1日分：荷物梱包用

20 テストピース

【後期】

1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸IV-2」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。

2 作業着：窯出し時は綿素材の長袖を着用のこと

3 筆記用具：鉛筆、定規など

4 スケッチブック：事前課題

5 制作に必要な道具：剣先、針、竹べら、弓、ワイヤー切り糸、なめし皮など

6 削り用カンナ

7 カッターナイフ（大）

8 はさみ

9 曲尺（長さ30cm）：金属L字型定規

10 養生テープ

11 セロテープ

12 ドベ入れ容器とドベ用筆：ドベ塗り用（小さいタッパーなどでも可）

13 筆（中）1本：白化粧、施釉用

14 平刷毛：装飾用、白化粧・施釉用

15 布：裁断可能で45cm以上のもの、Tシャツのように伸縮性のある生地のものであれば持参。土を板に伸ばすときに使用し、型と土が付かないように間に挟む布のたわみを利用して曲面を作る。

16 スポンジ：装飾、施釉用※四角いもの

17 タオル：裁断可のもの、陶土や作品の乾燥を防ぐため

18 ビニール袋：ゴミ袋（大・小各4枚）：陶土や作品の乾燥を防ぐため

19 雑巾

20 マスク：掃除用

21 布粘着テープ、新聞紙1日分：荷物梱包用

22 乳鉢（直径15cm）と乳棒：釉薬調合用※購買部（ADストア）で購入できます

23 ディスポカップ

24 純綿の軍手2組：窯出し時に二重にして使用

25 グラフ用紙（方眼紙）：窯スケジュール用

●諸経費

後日、以下の教材費を指定の口座から引き落とします。

○陶土…3割赤荒土10kg／1000円

○陶芸作品送付用ダンボール（梱包材込み）…1箱／950円

※課題作品は後日着払いにて返却しますので、返却用ダンボール箱を購入していただきます。

※フォローアップ参加者は、各自で梱包し返送の作業を行ってください。その際、ダンボール箱が必要な方は後期初日の13：00までにお申し込みください。

※金額は変更になる場合があります。

●その他

大学で準備するもの：タタラ板（1mm、3mm）、桟板、亀板、ローラー、ケイカルボード、カッティングボード、釉薬、塩ビパイプ、手ロクロ、手桶、霧吹き、バーナー、道具作り用の材料（金鋸の刃）、工

具、カッターナイフ、定規、布、片栗粉タンポ、土のう袋、チャッカマン、ゼーゲルコーン、CMC、素焼き用白化粧（例：天草2、カオリン1、珪石2）1kgずつ、釉噴霧器、黒のバック紙、光源

注意事項

本科目には事前課題が設定されています。「課題」の項目を確認し、必ず指定日までに取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

S	陶芸V-1 発想の展開 科目コード： 64018
配当年次	3年次～
単位数	2
履修の前提条件	1年次テキスト科目全てと「陶芸演習II-1」を合格済みのこと。 ※「陶芸V-1、V-2」の2科目必修。2014年度以降の入学生は本科目を「陶芸V-1」の科目名で単位認定します。2013年度以前の入学生は、修得した順に「陶芸V-1」、「陶芸V-2」の科目名で認定します。
開講日程・ 開講地・定員	陶芸V-1/V-1～2(発想の展開)a 開催日程：2019年4月20日（土）～ 2019年4月21日（日）, 2019年5月11日（土）～ 2019年5月12日（日） 開催地：京都、受講料： ￥26,000、定員：25 陶芸V-1/V-1～2(発想の展開)b 開催日程：2019年6月8日（土）～ 2019年6月9日（日）, 2019年7月6日（土）～ 2019年7月7日（日） 開催地：京都、受講料： ￥26,000、定員：25
担当者	清水六兵衛*、神内康年、土谷徹、倉澤洋輝

科目概要と到達目標

物体あるいは非物体を見つめなおす中で、それらから感じとったイメージを形にすることを学びます。ものを創造する発想の原点を見つめなおし、各自の感性で表現することが主な狙いです。想像力を豊かにはばたかせて、本当に自分の内から出た表現を考えてください。後期3日間では、施釉し焼成することで作品の完成まで持っていくことを学びます。また、教員によるワークショップや自身の作品をプレゼンテーションするためのポートフォリオ、展覧会を開催する時のためのDM（案内状）の作成方法も学びます。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
 2. 課題の理解度
 3. 発想力（独自の視点を持っているか）
 4. 表現力（技法の特性を把握し表現しているか）
 5. 完成度（仕上げの丁寧さ）
- 授業への取り組みと制作課題による総合評価

予習・復習

スクーリング前に、授業内容とテキスト『素材と手のトレーニング』、『土のメッセージ』をよく読んで、スクーリング内容について理解を深めるようにしてください。技法・材料に関することや様々な専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。スクーリング終了後は学んだ技法、制作手順や作品の写真、教員のアドバイスなどを「制作ノート」として整理しファイルしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』、陶芸②『土のメッセージ』 ※わからない用語に関しては、テキスト陶芸①『素材と手のトレーニング』資料用語解説（pp.225～229）および陶芸②『土のメッセージ』の索引（pp.223～225）を参照してください。
参考文献・URL	無

課題

【事前課題について】

1. 課題内容：制作

課題のテーマ（2つのどちらかを選択）をイメージし、発想の手掛かりとなるような資料や完成予想図（アイデアスケッチ）などを準備すること。

2. 提出日：

【a日程】制作：4/20（土）

【b日程】制作：6/8（土）

3. 提出先：スクーリング当日に持参すること（授業内で使用）

【スクーリングの課題】

■制作テーマ：

・「もの」からの発想

例）紙・布・石・植物・液体などのイメージをもとに造形する。

・「音」からの発想、身近にある音や音色など、各自が持つ音のイメージをもとに造形する。ただし楽曲は除く。

※2つのうちどちらかを選択し制作する。

大きさ：高さ38cmまでとする（幅は相談に応じます）

陶土（一人あたり）：白土10kg・赤土10kg・黒陶土10kgのいずれかを選択

※陶土選択についてはairUシラバス「テキスト・教材学習」の「資料編・教材申込書」または、シラバス巻末【資料編・教材申込書】をご参照いただき、期日までに申込みをしてください。未提出者は白土に統一します。

提出作品：1点

焼成作品：1点

釉薬：土灰釉、伊羅保釉、白釉、無釉（焼き締め

焼成方法：酸化焼成 ※スクーリング中に各自に本焼窯詰め、焼成を実習します。

授業計画

【自宅学習】

事前課題

【スクーリング】

<前期>

1日目

1講時 課題説明

2講時～5講時 制作

2日目

1講時～3講時 制作

4講時～5講時 合評

<後期>

3日目

1講時 特別講義

2講時～5講時 施釉・窯詰め

4日目

1講時～2講時 ポートフォリオ・DM作成講義

3講時～4講時 釉薬講義

5講時 ワークショップ

【フォローアップについて】

フォローアップとしてスクーリング<後期>終了の翌日、希望者は担当教員の指導のもとで窯出しをすることができます。フォローアップに参加できない方は研究室で課題作品を窯出しの上、梱包して着払いにて返却します。 ※フォローアップは、希望者のみの自由参加です。

3～5講時 窯出し、担当教員による講評

※窯の冷え具合によって窯出しの時間は変動します。

●持参物

- 1 作業着：窯出し時は綿素材の長袖を着用のこと
- 2 純綿の軍手（2組）：窯出し時に二重にして使用

受講にあたって

●持参物

事前課題・・・スクーリング初日に持参のこと

【前期】

- 1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸V-1」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。
- 2 作業着
- 3 筆記用具
- 4 スポンジ
- 5 カッターナイフ
- 6 雑巾
- 7 マスク：掃除用
- 8 布粘着テープ、新聞紙1日分：制作、荷物梱包用
- 9 各自制作に必要な道具：切り糸、ワイヤー、竹ベラ、剣先など
- 10 事前課題
- 11 ビニールのゴミ袋（大）：作品の乾燥を防ぐため
- 12 タオル

【後期】

- 1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸V-1」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。

- 2 作業着：窯出し時は綿素材の長袖を着用のこと
- 3 筆記用具
- 4 スポンジ
- 5 カッターナイフ
- 6 雑巾
- 7 マスク：掃除用
- 8 布粘着テープ、新聞紙1日分：制作、荷物梱包用
- 9 各自制作に必要な道具：切り糸、ワイヤー、竹ベラ、剣先など
- 10 事前課題
- 11 施釉用の彩色筆
- 12 純綿の軍手（2組）：窯出し時に二重にして使用
- 13 定規（30cm）：ポートフォリオ制作のため
- 14 糊、スティック糊：ポートフォリオ制作のため
- 15 ホッチキス：180度を開くタイプのものが良いポートフォリオ制作のため
- 16 スケッチブック（サイズ自由）：アイデア出し用、ポートフォリオ制作のため

●諸経費

後日、以下の教材費を指定の口座から引き落とします。

○陶土…各自が選択した土の種類により、金額が変わります。

白土10kg／800円、赤土10kg／800円、黒陶土10kg／1,600円

○陶芸作品送付用ダンボール（梱包材込み）…1箱／950円

※課題作品は後日着払いにて返却しますので、返却用ダンボール箱を購入していただきます。

※フォローアップ参加者は、各自で梱包し返送の作業を行ってください。その際、ダンボール箱が必要な方は後期初日の13：00までにお申し込みください。

※金額は変更になる場合があります。

●その他

大学で準備するもの：タタラ板（5mm、7mm）、作業板、手桶、撥水剤、撥水剤用の筆、釉薬（土灰釉、伊羅保釉、白釉）、バケツ、工具、土のう袋、ケイカルボード、手ロクロ、バーナー、石膏攪拌棒、カリ石鹼、珪酸ソーダ、たたき板、ローラー、電動ロクロ、カッティングマット

注意事項

本科目には事前課題が設定されています。「課題」の項目を確認し、必ず指定日までに取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

S	陶芸V-2 上絵の器 科目コード： 64019
配当年次	3年次～
単位数	2
履修の前提条件	1年次テキスト科目全てと「陶芸演習Ⅱ-1」を合格済みのこと。 ※「陶芸V-1、V-2」の2科目必修。2014年度以降の入学生は本科目を「陶芸V-2」の科目名で単位認定します。2013年度以前の入学生は、修得した順に「陶芸V-1」、「陶芸V-2」の科目名で認定します。
開講日程・ 開講地・定員	陶芸V-2/V-1～2(上絵の器)a 開催日程：2019年5月18日（土）～ 2019年5月19日（日）, 2019年6月15日（土）～ 2019年6月16日（日） 開催地：京都、受講料： ¥26,000、定員：25 陶芸V-2/V-1～2(上絵の器)b 開催日程：2019年7月20日（土）～ 2019年7月21日（日）, 2019年8月24日（土）～ 2019年8月25日（日） 開催地：京都、受講料： ¥26,000、定員：25
担当者	西村充*、重森陽子、山口剛明、田中美智子

科目概要と到達目標

この科目では、器に上絵付けをすることを前提として、器の持つ機能性（使いやすさ、重さなど）を確認しながら、美しい形、また使用するシーンを考えた個性ある器を作ります。陶芸作品にとって重要な表現方法である上絵付けの技術も学習します。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
 2. 課題の理解度
 3. 発想力（形や用途の面白さ）
 4. 表現力（器のもつメッセージ性）
 5. 完成度（仕上げの丁寧さ、機能性）
- 授業への取り組みと制作課題による総合評価

予習・復習

スクーリング前に、授業内容とテキスト『素材と手のトレーニング』、『土のメッセージ』をよく読んで、スクーリング内容について理解を深めるようにしてください。技法・材料に関することや様々な専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。スクーリング終了後は学んだ技法、制作手順や作品の写真、教員のアドバイスなどを「制作ノート」として整理しファイルしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』、陶芸②『土のメッセージ』
------	-------------------------------

テキスト	※わからない用語に関しては、テキスト陶芸①『素材と手のトレーニング』資料用語解説（pp.225～229）および陶芸②『土のメッセージ』の索引（pp.223～225）を参照してください。
参考文献・URL	無

課題

【事前課題について】

①（器製作）課題のテーマをイメージし完成予想図（アイデアスケッチ）をスケッチブックなどに数枚描き、スクーリング初日に持参すること。※上絵付けのデザインも考えておくこと。

提出日：【a日程】5/18（土）【b日程】7/20（土）

提出先：スクーリング初日に持参のこと

②（上絵実習）上絵付用の作品を下記の内容で制作

作品数：合計2点

- a. 角陶板 1点
- b. 曲線輪郭の陶板 1点（例：丸、瓢型など）

大きさ【厳守】：

- a. 焼成後：縦20cm×横20cm×厚み1cm程度（縦21cm×横21cm×厚み1cmで制作）
- b. 焼成後：縦20cm×横15cm×厚み1cm程度（縦21cm×横16cm×厚み1cmで制作）

材料：

a・b 白土1点 ※白土は磁土でも可。ただし、半磁土は不可。

釉薬：

学内焼成：土灰釉

自宅焼成：自由（ただし、透明釉であること）

焼成：

学内焼成：酸化焼成

自宅焼成：自由

提出期間【必着】

a日程受講者：5/11（土）～5/13（月）【必着】

b日程受講者：7/13（土）～7/16（火）【必着】

事前課題は、上記の期間に提出してください。本焼成済の作品のみスクーリング当日の持参を可とします。

※スクーリングまでに、素焼・本焼成を行います。

※自宅焼成以外は期日を厳守し、必ず提出してください。

※提出期間内に作品を提出されなかった場合、作品の焼成はできません。

提出の注意：

- ・作品には、必ず共通のサインを刻み入れること（学籍番号は必要ありません）。
 - ・事前課題提出時のダンボール箱は、任意のもので構いません。任意のダンボール箱を使用する場合は、箱の外側に学籍番号と氏名を明記してください。
 - ・送り状（記事欄・品名）に「陶芸Ⅴ（上絵）事前課題・生（または素焼・本焼済）」を記入してください。
- ※テキスト科目の課題など、事前課題以外のものは同梱しないでください。

提出先：通信陶芸添削室宛

【スクーリングの課題内容】

■器製作

テーマ：“日々の生活の場”にあって心を豊かにさせてくれる器、非日常の世界に運んでくれるような器など、自分なりの新しい形を探す。（上絵付けをすることを前提として考える。）

大きさ：任意（ただし、高さは30cm以内）

陶土：（一人あたり）白土10kg

提出作品：1点、あるいは1セット

焼成作品：1点、あるいは1セット

釉薬：土灰釉

焼成方法： 酸化焼成 ※スクーリング〈後期〉までに素焼・本焼を行います。

■上絵実習

テーマ：事前課題の角陶板・曲線輪郭の陶板を用いて小紋、宝紋、幾何学模様などをモチーフに図案の展開。

（図案は資料を配布しますが、各自で用意・持参してもよい）前期日程で制作した器を用いて自由に表現する。

大きさ：「課題」「事前課題について」参照

提出作品：「課題」「事前課題について」参照

焼成作品：前期日程で制作した器1点、あるいは1セット。事前課題2点。

焼成方法：上絵焼成※スクーリング中に各自で窯詰め、焼成を実習します。

授業計画

【自宅学習】

事前課題

【スクーリング】

<前期>

1日目

1講時 課題説明

2～5講時 器制作

2日目

1～5講時 器制作

<後期>

3日目

1～4講時 上絵実習

5講時 上絵窯詰め

4日目

1講時 特別講義

2講時 教員ワークショップ

3講時 窯出し

4講時～5講時 合評

●持参物

事前課題…スクーリング初日に持参のこと

【前期】

- 1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸V-2」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。
- 2 作業着
- 3 筆記用具
- 4 スポンジ
- 5 カッターナイフ
- 6 雑巾
- 7 マスク：掃除時のホコリ避け
- 8 布粘着テープ、新聞紙1日分：制作、荷物梱包用
- 9 各自制作に必要な道具：切り糸、ワイヤー、竹ベラ、弓、剣先など
- 10 ビニールのゴミ袋〔大〕：作品の乾燥を防ぐため
- 11 タオル
- 12 アイデアスケッチ：事前課題

【後期】

- 1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸V-2」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。
- 2 作業着：窯出し時は綿素材の長袖を着用のこと
- 3 筆記用具
- 4 スポンジ
- 5 カッターナイフ
- 6 雑巾
- 7 マスク：掃除時のホコリ避け
- 8 布粘着テープ、新聞紙1日分：制作、荷物梱包用
- 9 各自制作に必要な道具：切り糸、ワイヤー、竹ベラ、剣先など
- 10 混色用パレット：絵具を混色するため
- 11 施釉用の彩色筆
- 12 スケッチブック：大きさは自由
- 13 筆〔大〕〔小〕数本
- 14 面相筆：毛先の長く細いものがよい
- 15 刷毛
- 16 乳鉢（直径15cm以上）・乳棒：購買部（ADストア）にて購入できます
- 17 竹ベラ：ガラス板や作品に付いた絵具を取るため
- 18 色鉛筆：色数は自由
- 19 純綿の軍手（2組）：窯出し時に二重にして使用
- 20 定規、三角定規など：下書き用

●諸経費

後日、以下の教材費を指定の口座から引き落とします。

白土10kg／800円

○陶芸作品送付用ダンボール（梱包材込み）…1箱／950円

※最終窯出し後、各自で梱包し返送の作業を行ってください。その際、ダンボール箱が必要な方は後期初日の13：00までにお申し込みください。

※金額は変更になる場合があります。

●その他

大学で準備するもの：タタラ板（5mm、7mm）、作業板、手桶、撥水剤、撥水剤用の筆、白化粧、釉薬（土灰釉、伊羅保釉、白釉）、バケツ、工具、土のう袋、ケイカルボード、手ロクロ、バーナー、石膏攪拌棒、カリ石鹼、珪酸ソーダ、上絵具（※）、にかわ、ふのり、ガラス板、角乳棒、ローラー、たたき板、下絵具（呉須、弁柄など）、電動ロク※上絵具（無鉛）…緑、紺、浅黄、紫、黄、黒、赤（金・銀は持込可）

注意事項

本科目には事前課題が設定されています。「課題」の項目を確認し、必ず指定日までに取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。なお、指定期間内に事前課題の作品を提出されなかった場合、作品の焼成はできませんので十分ご注意ください。

S	陶芸V-4 技法研究／大物ロクロ 科目コード： 64021
配当年次	3年次～
単位数	1
履修の前提条件	※1年次テキスト科目全てと「陶芸演習Ⅱ-1」を合格済みのこと。 ※2014年度以降の入学生は「陶芸V-3」～「陶芸V-6」のなかからいずれか2科目選択必修。本科目を「陶芸V-4」の科目名で単位認定します。 ※2013年度以前の入学生は、「陶芸V-3～6」のなかからいずれか2科目選択必修。修得した順に「陶芸V-4」、「陶芸V-5」の科目名で単位認定します。
開講日程・ 開講地・定員	陶芸V-4/V-4～5(技法研究/大物ロクロ) 開催日程：2019年11月2日（土）～ 2019年11月3日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：25
担当者	清水六兵衛*、八木明

科目概要と到達目標

既成概念にとらわれない大物ロクロの挽きかたを模索し、自身の形を認識・発展させます。「陶芸Ⅰ」のロクロの実習で学んだことの展開として、手びねりとロクロを併用して大きな器を作ります。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 課題の理解度
3. 発想力（独自の視点を持っているか）
4. 表現力（技法の特性を把握し表現しているか）
5. 完成度（仕上げの丁寧さ）

授業への取り組みと制作課題による総合評価

予習・復習

スクーリング前に、授業内容とテキスト『素材と手のトレーニング』、『土のメッセージ』をよく読んで、スクーリング内容について理解を深めるようにしてください。技法・材料に関することや様々な専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。スクーリング終了後は、学んだ技法、制作手順や作品の写真、教員のアドバイスなどを「制作ノート」として整理しファイルしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』、陶芸②『土のメッセージ』 ※わからない用語に関しては、テキスト陶芸①『素材と手のトレーニング』資料用語解説（pp.225～229）および陶芸②『土のメッセージ』の索引（pp.223～225）を参照してください。
参考文献・URL	無

課題

【事前課題】

1. 課題内容：スクーリングで制作しようとする大鉢のアイディアスケッチを5点（A4スケッチブック）
2. 提出日：11/2（土）
3. 提出先：スクーリング初日に持参

【スクーリングの課題】

内容：手びねりを併用したロクロ成形で大鉢を制作
大きさ：5kgで作り得る最大の大きさ（縦40cm×横40cm×高さ30cm程度）
陶土（一人あたり）：赤土10kg
提出作品：1点
焼成作品（希望者のみ）：1点
釉薬：土灰釉
焼成方法：酸化焼成

授業計画

【自宅学習】

事前課題

【スクーリング】

1日目

1講時 課題説明

2講時～5講時 制作

2日目

1講時～3講時 制作

4講時～5講時 課題合評

受講にあたって

●持参物

事前課題…スクーリング初日に持参のこと

- 1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸V-4」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。
- 2 作業着
- 3 筆記用具
- 4 各自ロクロ制作に必要な道具：竹ベラ、ワイヤーなど
- 5 ビニールのゴミ袋〔大〕：作品の乾燥を防ぐため
- 6 手拭き、サラシなどの木綿の布：ロクロ成形および作品の乾燥を防ぐために使用
- 7 刷毛、筆：白化粧用
- 8 新聞紙1日分
- 9 雑巾
- 10 アイディアスケッチ：事前課題

●諸経費

後日、以下の教材費を指定の口座から引き落とします。

○陶土…赤土10kg／800円

○焼成費…2,000円

※この科目の作品は、希望者のみ焼成します。その際、焼成費がかかります。

○陶芸作品送付用ダンボール（梱包材込み）…1箱／950円

※焼成希望者は、後日着払いにて返却しますので、返却用ダンボール箱を購入していただきます。

※金額は変更になる場合があります。

●その他

大学で準備するもの：白化粧土、作業板、手桶、工具、土のう袋、バーナー、ケイカルボード、電動ロクロ、はかり

注意事項

本科目には事前課題が設定されています。「課題」の項目を確認し、必ず指定日までに取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

S	陶芸V-5 釉薬研究 科目コード： 64022
配当年次	3年次～
単位数	1
履修の前提条件	※1年次テキスト科目全てと「陶芸演習Ⅱ-1」を合格済みのこと。 ※2014年度以降の入学生は「陶芸V-3」～「陶芸V-9」のなかからいずれか2科目選択必修。本科目を「陶芸V-5」の科目名で単位認定します。 ※2013年度以前の入学生は、「陶芸V-3～6」のなかからいずれか2科目選択必修。修得した順に「陶芸V-4」、「陶芸V-5」の科目名で単位認定します。
開講日程・ 開講地・定員	陶芸V-5/V-4～5(釉薬研究) 開催日程：2019年11月23日（土）～ 2019年11月24日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：25
担当者	清水六兵衛*、横山直範

科目概要と到達目標

日本の伝統的な陶磁器に使用されている釉薬について、釉薬のテストピース作りを通じて、陶磁器の原料・釉薬調合・施釉・窯詰め・焼成について陶磁器釉薬技術の基礎知識を習得します。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
 2. 課題の理解度
 3. 提出レポート（日本の伝統的釉薬についての調査）
- 授業への取り組みと提出レポートによる総合評価

予習・復習

スクーリング前に、授業内容とテキスト『素材と手のトレーニング』、『土のメッセージ』をよく読んで、スクーリング内容について理解を深めるようにしてください。技法・材料に関することや様々な専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。スクーリング終了後は、学んだ技法、制作手順や作品の写真、教員のアドバイスなどを「制作ノート」として整理しファイルしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸②『土のメッセージ』 ※わからない用語に関しては、テキスト陶芸①『素材と手のトレーニング』資料用語解説（pp.225～229）および陶芸②『土のメッセージ』の索引（pp.223～225）を参照してください。
参考文献・URL	『やきものと釉薬』 大西政太郎 理工学社 『陶芸の土と窯焼き』大西政太郎 理工学社 『釉薬基礎ノート』 津坂和秀 双葉社

課題

【事前課題について】

■レポート：日本の伝統釉に関する調査

日本の伝統釉薬のうち、下記の白釉、鉄釉、銅釉の中から各1種を選び、その釉薬の特徴（色合いや釉薬の性状）その歴史的あるいは地域的な背景を調べなさい。下記、白釉・鉄釉・銅釉から1種類ずつ釉薬を選択し、任意のA4用紙に800字程度ずつ（合計2,400字程度）にまとめること

[日本の伝統釉]

白釉（色材の入っていない釉薬）：灰釉、染付釉、白萩釉、志野釉薬 など

鉄釉（鉄成分の発色による釉薬）：青磁釉、飴釉、なまこ釉、伊羅保釉、天目釉、柿釉 など

銅釉（銅成分の発色による釉薬）：織部釉、辰砂釉、均窯釉、トルコ青釉 など

提出時の注意：テストピースと同梱せず、別途締切日厳守で提出してください。

※「指定課題表紙」をコピーして必要事項を記入の上、提出物の1枚目にホッチキスで留めて、郵送（第四種郵便扱いに該当）または窓口で提出をしてください。

提出締切日：2019/10/25（金）【必着】

提出先：送付・窓口（通信教育部 教務課宛）※通信陶芸添削室での提出不可

※課題提出期間の日曜日・祝日は窓口休止日ですので、持参での提出はできません。

■テストピース

授業初日に定型の赤素地と白素地の素焼きのテストピース（40mm×40mm×8mm）を用意

白土と赤土各50個（予備10個）

制作上の注意：規定のテストピース※底に氏名をはっきりと刻み入れる。

提出期間：11/1（金）～11/5（月）【必着】

※スクーリングまでに本学にて素焼焼成を行いますので、期日を厳守し、必ず提出してください。

※提出期間内にテストピースを提出されなかった場合、素焼焼成はできません。

※自宅で作成する場合は、素焼済みのテストピースを上記の提出期間に提出するか、スクーリング当日に持参してください。

提出の注意

①テストピース提出時のダンボール箱は、任意のもので構いません。任意のダンボール箱を使用する場合は、箱の外側に学籍番号と氏名を明記してください。

② 送り状（記事欄・品名）に「釉薬事前課題・生（または素焼）」を記入してください。

※テキスト科目の課題など事前課題以外のものは同梱しないでください。

提出先：送付・窓口（通信陶芸添削室宛）※通信教育部事務局窓口での提出不可

※課題提出期間の日曜日・祝日は窓口休止日ですので、持参での提出はできません。

※授業初日に素焼済みのテストピースが用意出来ていない場合は、受講不可。

【スクーリングの課題】

1. 陶磁器の分類

2. 素地・釉薬原料について
3. 釉薬について
4. 焼成について
5. 釉薬調合の実習と方法
6. 釉薬施釉の実習と方法
7. 釉薬焼成の実習と焼成方法（酸化焼成と還元焼成）
8. 釉薬テストピースボードの制作と評価
9. 新種釉薬の紹介

授業計画

【自宅学習】

事前課題

【スクーリング】

1日目

- 1講時～2講時 レクチャー（釉薬の基礎と日本の伝統釉薬）
釉薬調合の説明・質疑応答
- 3講時～5講時 釉薬調合・テストピース裏書き

2日目

- 1講時～2講時 釉薬施釉
- 3講時～4講時 窯詰め
- 5講時 参考テストピースの説明と整理方法の説明

受講にあたって

●持参物

- 1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸V-5」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。
- 2 作業着：窯出し時は綿素材の長袖を着用のこと
- 3 筆記用具：中～細描き出来る黒のマジック
- 4 乳鉢（直径15cm）・乳棒：購買部（ADストア）にて購入できます
- 5 菜さじ（計量スプーン）
- 6 白土と赤土の素焼きピース（各50個）：事前課題（大学にて素焼焼成を希望の方は「課題」欄を確認の上、提出期間中に必ず送付または持参してください。当日持参は素焼済みのテストピースのみ可とします。）
- 7 面相筆
- 8 雑巾
- 9 薄手のゴム手袋
- 10 純綿の軍手2組
- 11 マスク
- 12 テキスト陶芸②『土のメッセージ』
- 13 各自授業に必要な道具

●その他

希望者のみ 焼成してみたい土や石、灰などがあれば、直径5cm深さ2cmの皿に入る位の大きさのものを2～3個、初日に持参してください。テストピース焼成時に一緒に窯詰めをします。

大学で準備するもの：釉薬原料、電子天秤、薬包紙、水さし（ノズル付き容器）、ゴムベラ、薬さじ、チャック付きビニール袋（20cm×20cmと10cm×10 cm）各100枚、急須、鉄絵（鬼板）マドラー棒、施薬施釉用容器（プラスチック容器、直径10cm深さ5cm）20個

テストピースの見本（B4厚紙にテストピースを貼り付けたもの）

注意事項

本科目には事前課題が設定されています。「課題」の項目を確認し、必ず指定日までに取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

S	陶芸V-6 産地研究／信楽	科目コード： 64023
配当年次	3年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	※1年次テキスト科目全てと「陶芸演習Ⅱ-1」を合格済みのこと。 ※2014年度以降の入学生は「陶芸V-3」～「陶芸V-6」のなかからいずれか2科目選択必修。本科目を「陶芸V-6」の科目名で単位認定します。 ※2013年度以前の入学生は、「陶芸V-3～6」のなかからいずれか2科目選択必修。修得した順に「陶芸V-4」、「陶芸V-5」の科目名で単位認定します。	
開講日程・ 開講地・定員	陶芸V-6/V-4～5(産地研究/信楽) 開催日程：2019年6月29日（土）～ 2019年6月30日（日） 開催地：滋賀■、受講料： ¥16,000、定員：20	
担当者	西村充*、山田浩之	

科目概要と到達目標

六古窯の一つである滋賀県信楽で現地の土を使い、器を制作します。学内のスクーリングとは異なる環境での制作で、各自のものづくりへの姿勢を確認します。現地の工房を訪れ、地元作家の話も聞きながら、信楽焼産地の特性を学びます。作品は後日、大学の施設である黒田村アートビレッジにて穴窯で焼成します（参加自由）。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 課題の理解度
3. 発想力（独自の視点を持っているか）
4. 表現力（技法の特性を把握し表現しているか）
5. 完成度（仕上げの丁寧さ）

授業への取り組みと制作課題による総合評価

予習・復習

スクーリング前に、授業内容とテキスト『素材と手のトレーニング』、『土のメッセージ』をよく読んで、スクーリング内容について理解を深めるようにしてください。技法・材料に関することや様々な専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。スクーリング終了後は、学んだ技法、制作手順や作品の写真、教員のアドバイスなどを「制作ノート」として整理しファイルしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』、陶芸②『土のメッセージ』 ※わからない用語に関しては、テキスト陶芸①『素材と手のトレーニング』資料用語解説（pp.225～229）および陶芸②『土のメッセージ』の索引（pp.223～225）を参照してください。
------	---

課題

【事前課題について】

1. 課題内容：

- ①信楽焼きの歴史、作風、特徴、穴窯（薪窯）について調べておくこと。
- ②花器のアイデアスケッチを描いてくること。

2. 提出日：6/22（土）

3. 提出先：スクーリング当日に持参すること（授業内で使用）

【スクーリングの課題】

テーマ：信楽土を使って手びねりで制作し、穴窯で焼成する

内容：花器（花入、壺など）

大きさ：陶芸作品送付用ダンボールに入る大きさ

陶土（一人あたり）：古信楽土7kg

提出作品：2点

焼成作品：2点

釉薬：焼き締めとビードロ釉

焼成方法：穴窯焼成（黒田村アートビレッジ）

※別日程で行います。参加自由。

授業計画

【自宅学習】

事前課題

【スクーリング】

1日目

1～2講時 課題説明、産地見学（作家工房、窯元、他）

3講時～5講時 制作

2日目

1講時～2講時 制作

3講時～5講時 制作、合評

受講にあたって

●持参物

事前課題…スクーリング初日に持参のこと

1 『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸V-6」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと。

2 作業着

3 筆記用具

4 ビニールのゴミ袋 [大] 2枚

5 雑巾

6 各自制作に必要な道具：竹ベラ、カンナ、コテ、たたき板、なめし皮、ワイヤーなど手びねり技法で

必要と思われる道具

7 アイデアスケッチ：事前課題

●諸経費

当日、以下の費用をご用意ください。

○宿泊費、交通費、食費など…各自

後日、以下の教材費を指定の口座から引き落とします。

○陶土…古信楽土7kg／約700円

○貸切バス代（1日目工房見学のみ）・・・約2,000～3,000円

※かかった金額を受講者数でわります。

○焼成費…約6,000～7,000円

※窯使用料、薪代の合計を受講者数で割ります。

※貸切バス代および焼成費の金額は受講者数によって変わりますので、後日お知らせします。

○陶芸作品送付用ダンボール（梱包材込み）…1箱／950円

※後日焼成し着払いにて返却しますので、返送用ダンボール箱を購入していただきます。

※金額は変更になる場合があります。

●その他

■大学で準備するもの

たたき板、バーナー、ドライヤー

■会場

滋賀県立 陶芸の森

住所：〒529-1804 滋賀県甲賀市信楽町勅旨2188-7 TEL：0748-83-0909

■会場への行き方

・ JR「草津駅」草津線乗り換え「貴生川駅」下車→信楽高原鐵道乗り換え「信楽駅」下車→徒歩20分（約75分）

・ 信楽高原鐵道「信楽駅」より甲賀市コミュニティバス「陶芸の森前」または「陶芸の森（陶芸館前）」下車

・ JR「石山駅」より帝産湖南交通バス「陶芸の森前」下車（注：田上車庫の停留所で乗り継ぎ）

■宿泊について

インターネットなどで検索し、各自で手配をしてください。

■焼成について

本科目で制作した作品は、通学部総合造形コースの学生と共同で黒田村アートビレッジにある穴窯で焼成します。薪で4日間昼夜をとおして焼成します。焼成の参加は自由です。希望者のみ参加してください。詳細はスクーリング期間中にお知らせします。

【注意】

※本科目を受講した学生しか参加できません。

※本科目で制作した作品しか焼成できません。

●焼成期間中の宿泊について

全日程または数日に渡り参加される方は、黒田村アートビレッジに宿泊できます。なお、期間中は通学部総合造形コースの学生が黒田村アートビレッジに宿泊するため、通学部の学生と相部屋になりますのでご了承ください。※黒田村アートビレッジ以外に宿泊を希望される方は、インターネットなどで検索し、各自で手配してください。

■焼成日程

【10月31日（木）～11月3日（日）】

1日目：午後3時現地集合、窯詰め、焼成開始

2日目：焼成（あぶり）

3日目～4日目：焼成（薪）

※窯出しの日時は、スクーリング中にお知らせします。

■焼成参加申込みについて

焼成参加希望者は焼成期間となる4日間のうち、何日でも都合のよい日・時間に参加してください。スクーリング期間中に「焼成参加申込書」を配付しますので、希望される方はお申し込みください。

■作品の返却について

窯出し終了後、大学で梱包し着払いにて返却します。

注意事項

本科目には事前課題が設定されています。「課題」の項目を確認し、必ず指定日までに取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

S	陶芸V-9 焼成研究/ 黒陶・楽	科目コード： 64026
配当年次	3年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	無	
開講日程・ 開講地・定員	陶芸V-9(焼成研究/黒陶・楽) 開催日程：2019年10月12日（土）～ 2019年10月13日（日） 開催地：京都（黒田村）■、受講料： ￥16,000、定員：25	
担当者	西村充*、中野悟朗	

科目概要と到達目標

黒陶とは、素焼き状態の作品を松脂を使って黒陶窯で蒸し焼きにしたものです。焼成後は黒くなり、表面の磨いたところは黒光りして光沢が得られるのも魅力です。また楽焼は、一般的な日本の楽焼とは異なり、アメリカン・ラクという技法で焼成します。短時間で温度を上げ、作品は窯から出した後、おがくずや細く裂いた新聞紙の中に投入したり、水に浸けて急冷したりすることで質感や色合いが本焼焼成では得られない表情になります。この科目では、低温焼成の知識と技法を学びます。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 課題の理解度
2. 発想力（独自の視点を持っているか）
3. 表現力（技法の特性を把握し表現しているか）
4. 完成度（「黒陶・楽」独特の色調、表情がでているか）

授業への取り組みと制作課題による総合評価

予習・復習

スクーリング前に、授業内容とテキスト『素材と手のトレーニング』、『土のメッセージ』をよく読んで、スクーリング内容について理解を深めるようにしてください。技法・材料に関することや様々な専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。スクーリング終了後は、学んだ技法、制作手順や作品の写真、教員のアドバイスなどを「制作ノート」として整理しファイルしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』、陶芸②『土のメッセージ』 ※わからない用語に関しては、テキスト陶芸①『素材と手のトレーニング』資料用語解説（pp.225～229）および陶芸②『土のメッセージ』の索引（pp.223～225）を参照してください。
参考文献・URL	無

課題

【事前課題】

作品数：第1課題（黒陶焼成）2点（1点は必ず磨きを入れること、2点とも磨きを入れてもよい）
第2課題（アメリカン・ラク）3点

※第1課題、第2課題ともに器、クレイワークなど作品の形態は自由。

大きさ：第1課題（黒陶焼成） 縦20cm×横20cm×高さ20cm（厳守）
第2課題（アメリカン・ラク） 火バサミで挟み、持ち上がる大きさ・重さ
（850℃になったら作品を窯から取り出すため）

陶土：第1課題（黒陶焼成） 自由（磁器土、黒泥土、黒御影土は不可）
第2課題（アメリカン・ラク） 楽土（通常の土でも可、磁器土は不可）

提出期間〔厳守〕：9月21日（土）～9月24日（火）〔必着〕（生・素焼どちらでも可）

提出の注意

- ・作品には、必ず共通のサインを刻み入れること。（学籍番号は必要ありません）
 - ・生の状態で提出された場合は本学で素焼を行い、スクーリング会場に輸送します。
 - ・素焼の状態で提出された場合は開梱せずにスクーリング会場に輸送します。
 - ・事前課題提出のダンボール箱は、任意のものでかまいません。任意のダンボール箱を使用する場合は、箱の外側に学籍番号と氏名を明記して下さい。
 - ・事前課題送付の際、送り状（記事欄・品名）に「黒陶・楽事前課題・生（あるいは素焼）」と記入して下さい。
 - ・事前課題をスクーリング会場へ直接発送することは窯詰め時に作品の到着が間に合わないため、できません。ただし、素焼済み作品であれば、スクーリング会場へ直接持参は可能です。
- ※テキスト科目の課題など、事前課題以外のものは同梱しないで下さい。

【スクーリングの課題】

第1課題

テーマ：黒陶焼成

内容：半乾燥の状態で磨いた作品を素焼し、黒陶専用の窯を使い約600℃まで温度を上げ、松脂と水を窯の中に投入して窯を密閉して冷却する。松脂と水により蒸し焼き状態にして黒光りした表情を得る。器、クレイワークなど焼成する作品の形態は自由。

※作品は半乾燥の状態で、竹ベラやスプーンの裏で磨くと光沢がつきます。また、より乾いた状態（完全乾燥は不可）で、油やバターなどを塗って磨くと光沢がつきます。

第2課題

テーマ：アメリカン・ラク

内容：耐火レンガを積んだ即席の窯で約850℃まで短時間で温度を上げ、火バサミで窯の中から作品をつまみあげ、おがくずや細く裂いた新聞紙の中に投入したり、水に浸けて急冷したりすることで本焼では得られない質感や色合いを得る。器、クレイワークなど焼成する作品の形態は自由。

授業計画

【自宅学習】

事前課題

【スクーリング】

1日目

午前11時現地集合

2講時～5講時 黒陶窯詰、黒陶焼成（午後7時頃終了予定）楽窯築窯、楽釉施釉、楽焼成

2日目

1講時～3講時 黒陶窯出し、楽焼成

4講時～5講時 課題合評

受講にあたって

●持参物

事前課題…スクーリング初日に持参または期日までに大学に送付

- 1.『陶芸コース専門教育科目シラバス2019』：コピー可（「陶芸V-9」のページ）、またはairUシラバス該当科目を出力し持参のこと
- 2.純綿の作業着（長袖）：綿100%のもの
- 3.筆記用具
- 4.雨具、スニーカー、帽子：焼成は屋外となるため
- 5.筆：施釉用
- 6.刷毛：施釉用
- 7.純綿の軍手2組：2枚重ねて使用
- 8.新聞紙 2～3日分：楽焼の還元用
- 9.常備薬（各自必要に応じて）

●諸経費

当日、以下の費用をご用意ください。

○交通費、食費など…各自

後日、以下の費用を指定の口座から引き落とします。

○宿泊費（施設使用料）…800円/1泊分（黒田村アートビレッジ宿泊者のみ）

○焼成費…1,500円

※金額は変更になる場合があります。

●その他

■会場

黒田村アートビレッジ

〒601-0406 京都府京都市右京区京北宮町笹部／TEL：075-856-0250

■会場へのアクセス

【バス】

JR「京都駅」（JRバス周山行き）→「周山」乗り換え（京北ふるさとバス）→「笹部」下車→徒歩10分
（京都駅→周山駅 片道1,180円、周山駅→笹部 片道680円）

問い合わせ先：

西日本JRバス（京都営業所） TEL：075-672-2851

（周山バスセンター） TEL：075-852-0602

京北ふるさとバス TEL：075-852-0171

【タクシー】

京都駅から黒田村アートビレッジへの手配を往路のみ大学で行います。希望される方は期日までにお申

し込みください（小型・中型タクシー（4～5名乗り）片道10,000円程度）。大学で手配するタクシーについては、初日9：30京都駅発（予定）としていますが、乗り場などの詳細は開講10日前を目処に受講案内にて申込者の方へお知らせします。

本科目シラバス末尾の申込用紙・申込方法「黒田村アートビレッジ宿泊・タクシー申込書」を提出期日までにFAXまたは郵送にて提出すること。

申込期間：9月24日（火）～9月28日（土）【必着】

申込変更・取消：申込内容の変更やキャンセルについては、陶芸コース宛に「学習に関する質問票」またはメール・airUコンシェルジュにてご連絡ください。

■黒田村アートビレッジ

宿泊を希望される方は期日までにお申込ください。

本科目シラバス末尾の申込用紙・申込方法「黒田村アートビレッジ宿泊・タクシー申込書」を提出期日までにFAXまたは郵送にて提出すること。

申込期間：9月24日（火）～9月28日（土）【必着】

申込変更・取消：申込内容の変更やキャンセルについては、陶芸コース宛に「学習に関する質問票」またはメール・airUコンシェルジュにてご連絡ください。

＜施設＞大広間32畳1室、和室8畳8室（主に寝室として使用、相部屋）、自炊設備（調理器具あり）、シャワー3室、トイレ、駐車スペース、公衆電話

＜食事＞初日の昼食のみ持参※近隣スーパーまで車で約20分

■注意事項

スクーリングの前泊・後泊はできません。

宿泊は相部屋となります。

朝夕は冷えるので、長袖の衣類を必ず持参してください。

■大学で準備するもの：松ヤニ（または松葉）、灯油、モミガラ、LPガス、楽釉

注意事項

本科目には事前課題が設定されています。「課題」の項目を確認し、必ず指定日までに取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

S	卒業制作（陶芸） 必修1、制作1、制作2、制作3、焼成、必修2 科目コード： 64091
配当年次	4年次～
単位数	6
履修の前提条件	卒業制作着手を許可されていること。
開講日程・ 開講地・定員	卒業制作(必修1) 開催日程：2019年5月25日（土）～ 2019年5月26日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員： なし 卒業制作(制作1) 開催日程：2019年8月10日（土）～ 2019年8月11日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員： なし 卒業制作(制作2) 開催日程：2019年10月5日（土）～ 2019年10月6日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員： なし 卒業制作(制作3) 開催日程：2019年10月19日（土）～ 2019年10月20日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員： なし 卒業制作(焼成) 開催日程：2019年12月21日（土）～ 2019年12月22日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員： なし 卒業制作(必修2) 開催日程：2020年1月25日（土）～ 2020年1月26日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員： なし
担当者	清水六兵衛*、西村充、神内康年

科目概要と到達目標

1～3年次科目では与えられた課題に取り組むスタイルでしたが、卒業制作では自分のテーマに基づいて制作していきます。スクーリング科目「卒業制作」6回（計12日間）とテキスト科目「陶芸演習Ⅳ」第1・第2課題を通して卒業制作に取り組めます。卒業制作の最終成果物は【通信教育部卒業制作展】に出品します。

評価基準と成績評価方法

1. 発想力（独自の視点を持っているか）
2. 表現力（技法の特性を把握し表現しているか）
3. 構成力（発想を表現へと組み立てていく力）
4. 完成度（仕上げの丁寧さ）

授業への取り組みと制作課題による総合評価

予習・復習

多くの実作品や本を見ることにより、造形だけでなく釉薬や絵付けも含む表現の可能性を考えてください。土の持つ素材感も確認しましょう。次に今までやってきた技法が挑戦する表現にふさわしいかも考えてみてください。

教員や他者の意見を参考に制作した作品を客観的に見ること、他者の作品を主観的に客観的に見ること
で表現の可能性を再確認しましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	無
参考文献・URL	無

課題

必修1、制作1、制作2、制作3、焼成、必修2のスクーリング初日に事前課題を提出して頂きます。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。授業計画の〈事前課題〉をよく読んで、スクーリング初日にご持参ください。レポート用紙のサイズはA4（様式は任意）とし、表紙に学籍番号と氏名を記載すること。

授業計画

■必修1：5/25（土）～5/26（日）

〈事前課題〉

テキスト課題1の結果を踏まえ、実際の制作に関する技法、土等を再考しプレゼンテーションのための準備として、発表内容を800字程度のレポートにまとめる。必要があればマケットの再制作をする。

1日目

1講時 ガイダンス

2講時～5講時 学生によるプレゼンテーション

2日目

1講時～5講時 学生によるプレゼンテーション、グループ面談、マケット制作

〈授業内容〉

卒業制作に着手するにあたり、年間スケジュールを含むガイダンスおよび担当教員によるスライドレクチャーを行います。その後、テキスト科目「陶芸演習Ⅳ」第1課題をもとに各自プレゼンテーションを行い、教員と今後の方向性について打ち合わせし、制作に取りかかります。

※2日目のマケット制作に使用する土（再生土）はコースで用意します。土の指定はできませんので、希望される土がある場合は各自で準備してください。

■制作1：8/10（土）～8/11（日）

〈事前課題〉

プレゼンテーションやその後の教員との面談を受けて、自身の制作に反映することや修正することを800字程度のレポートにする。場合によってはマケットの再制作をする。

1日目

1講時～5講時 教員との打ち合わせ、制作

2日目

1講時～5講時 制作

〈授業内容〉

教員との話し合いから、作品を発展・展開していきます。必要に応じて、テストピースによる釉薬、化粧土、素地の確認も行います。

■制作2：10/5（土）～10/6（日）

〈事前課題〉

前回のスクーリングで発見したことや今回のスクーリングで注意することを800字程度のレポートにする

1日目

1講時～5講時 教員との打ち合わせ、制作

2日目

1講時～5講時 制作

〈授業内容〉

教員との話し合いから、作品を発展・展開していくと共に、次回のスクーリングに向けて釉薬、焼成の検討を行います。作品提出（2020年1月18日（土）～1月20日（月）【必着】）へ向けての今後のスケジュールも確認します。

■制作3：10/19（土）～10/20（日）

〈事前課題〉

前回のスクーリングで発見したことや今回のスクーリングで注意することを800字程度のレポートにする

1日目

1講時～5講時 教員との打ち合わせ、制作

2日目

1講時～5講時 制作

〈授業内容〉

■焼成：12/21（土）～12/22（日）

〈事前課題〉

焼成に関する歴史、手法、窯の種類による違いなどテーマを決めて800字程度のレポートにする

1日目

1講時～2講時 施釉（制作）

3講時～4講時 窯詰め（制作）

4講時 焼成開始

2日目

1講時～5講時 焼成（制作）、教員ワークショップ

【フォローアップについて】

フォローアップとしてスクーリング＜後期＞終了の翌々日（12/24（火））、希望者は担当教員の指導のもとで窯出しをすることができます。フォローアップに参加できない方は研究室で作品を保管します。※フォローアップは、希望者のみの自由参加です。

3～5講時 窯出し、担当教員による講評

※窯の冷え具合によって窯出しの時間は変動します。

●持参物

- 1 作業着：窯出し時は綿素材の長袖を着用のこと
- 2 純綿の軍手（2組）：窯出し時に二重にして使用

〈授業内容〉

卒業制作作品提出に向けて、作品の施釉、焼成（制作）を行います。また、陶芸作家による特別講義（ワークショップ）を受けることで、第一線で活躍している人の視点を知り、各自の視野を広げます。窯出し後、卒業制作展へ向けて、展示プランの打ち合わせも行います。※学内で焼成される方は、このスクーリング中に焼成できるよう計画的に制作を進めてください。

■卒業制作作品提出

卒業制作作品を仕上げ、以下の期間に完成作品を提出してください。この時点で、合否の判定を行います。判定で不合格となった場合、再提出期間までに再制作し提出していただきます。

※ 提出にあたり「卒業制作作品提出アンケート」を焼成のスクーリング時に提出していただきます。卒業制作展における展示方法を明記したスケッチ、または写真を作品と一緒に提出してください。書式はairUシラバス「テキスト・教材学習」の「資料編・教材申込書」または、シラバス巻末【資料編・教材申込書】をご参照ください。

※不合格となった方には、再提出期間を書面にてお知らせします。

■卒業制作作品提出期間

2020年1月18日（土）～1月20日（月）【必着】

土・日曜日／10：00～15：00 月曜日／10：00～16：00

提出先：通信陶芸添削室

■注意事項

・作品の提出は、任意のダンボール箱を使用しても構いません。ただし、必ず箱の外側に科目名・学籍番号・氏名を明記してください。

・複数の組み合わせが必要とされる作品や、設置の仕方に指定のある作品は、写真またはスケッチを必ず作品に同封してください。

■必修2：2019年1月25（土）～1月26日（日）

〈事前課題〉

卒業制作作品のコンセプト、技法、釉薬、土、焼成、展示方法など合評に向けてのコメントを800字程度のレポートにする

【1日目】

1講時～5講時 作品搬入、展示、最終審査（合評）

【2日目】

1講時～2講時 最終審査（合評）

3講時～5講時 作品撮影

〈授業内容〉

作品を展示することで展示方法を確認し、卒業制作作品の最終審査（合評）を行います。その後、卒業制作作品集のための撮影を行います。これで終了ということではなく、一年に渡る各自の取り組みを自らも振り返り、今後の新たなスタートとなることを期待します。

受講にあたって

●持参物

各自が必要と思われるもの

●教材

【下鴨陶芸に注文し本学へ直接送付を希望する場合】

下記、申込方法を確認しairUシラバス「テキスト・教材学習」の「資料編・教材申込書」または、シラバス巻末【資料編・教材申込書】をご参照いただき、郵送またはFAXで各自発注してください。※スクーリングごとに必要分のみ注文してください。

陶土・石膏 購入申込方法

申込先 下鴨陶芸 TEL/FAX : 075-781-5514

申込用紙 「卒業制作スクーリング陶土申込書（本学送付用）」

支払方法 郵便振替 ※下鴨陶芸へ各自で支払う

材料受取 下鴨陶芸から本学へ直接送付

■材料店への申込締切日【必着】申込No.

（制作1）締切日 7/26（金） 申込み No.①

（制作2）締切日 9/20（金） 申込み No.②

（制作3）締切日 10/4（金） 申込み No.③

（焼成）締切日 12/6（金） 申込み No.④

【その他の業者に注文し、自宅から本学へ事前送付を希望する場合】

各自で準備した陶土を大学まで持ち運ぶのが困難な場合のみ、本学への事前送付を許可します。各スクーリングの前日午前着指定で通信陶芸添削室宛に送付してください。それ以外の日程では受け取りできません。その際、以下の点にご注意ください。

●諸経費

※学内で焼成を希望される場合は、焼成費がかかります。airUシラバス「テキスト・教材学習」の「資料編・教材申込書」または、シラバス巻末【資料編・教材申込書】をご参照ください。

●その他

【単位認定について】

卒業制作は、スクーリング科目「卒業制作」6単位とテキスト科目「陶芸演習Ⅳ」4単位を合わせて10単位一括認定です。いずれかの単位が修得できなかった場合は、スクーリング科目、テキスト科目とも単位認定は行いません（卒業制作が不合格になった場合、全て再履修となります）。

【卒業制作展について】

卒業制作作品は3月中旬～下旬に京都瓜生山キャンパスにて開催される【通信教育部卒業制作展】に出展します。作品搬入と展示および搬出作業は、出展者全員での取り組みとします。（参加できない場合は代理の方をたてていただきます。）詳細は卒業制作スクーリング中に説明します。

【卒業制作作品について】

■ 作品サイズについて

1つのパーツの大きさ：縦40cm×横40cm×高さ50cm以内

■ 材料について

卒業制作スクーリングでは、各自制作に必要な材料（陶土・石膏・顔料・原料など）が異なるため、使用する材料は各自で準備してください。

■ テストピース焼成、作品焼成について

卒業制作作品を本学にて焼成できるよう、スクーリング中に焼成を行います。また本焼成に向けて、テストピース焼成も受け付けています。テストピース焼成を希望する場合はテストピースに「卒業制作 テストピース焼成受付票」を添付し、下表の提出期間内に送付、または該当スクーリング期間中に提出してください。その際、必ず書き提出期間のNo.を申込書に記入すること。

卒業制作作品を学内にて焼成する場合は「卒業制作 焼成申込書」、黒陶・楽焼成を希望する場合は「卒業制作 黒陶・楽焼成申込書」、上絵焼成を希望する場合は「卒業制作 上絵焼成申込書」を提出してください。

※各種申込書はairUシラバス「テキスト・教材学習」の「資料編・教材申込書」または、シラバス巻末【資料編・教材申込書】をご参照ください。

■ 釉薬・素地・テストピース焼成までの流れ

スクーリング中に制作したテストピースを焼成できるよう、一部の提出期間（受付番号①～⑤）はスクーリング日程と合わせています。スクーリング中に提出、または以下の指定期間中に日付指定で送付してください。※テストピース焼成は、焼成費を徴収しません。

【テストピース提出期間】

- ① 5/25（土）～ 5/26（日）
- ② 6/22（土）～ 6/23（日）
- ③ 8/10（土）～ 8/11（日）
- ④ 10/5（土）～ 10/6（日）
- ⑤ 10/19（土）～ 10/20（日）

サイズ：縦10cm×横10cm以内（平面）、縦10cm×横10cm×高さ10cm以内（立体）※規定外のサイズは、受け付けできません。

釉薬：土灰釉・伊羅保釉・白釉※各自の釉薬を使用する場合は、事前に施釉すること。

焼成方法：素焼・酸化・還元

提出：送付、またはスクーリング中（提出期間と重なっているスクーリングのみ）に提出

※提出するテストピースには学籍番号と氏名を明記すること。

※airUシラバス「テキスト・教材学習」の「資料編・教材申込書」または、シラバス巻末【資料編・教材申込書】の「卒業制作テストピース焼成受付票」を添付のこと。※送付の場合は、任意のダンボール箱で構いません。

返却：提出期間から1ヶ月を目処に返却します。

※ ただし、還元焼成の場合はスケジュールの都合により返却が遅れる場合がありますので、余裕をもって提出してください。

※ 第四種郵便で送付可能なサイズの場合は返却用宛名シール（返却できる重さの切手を貼付）、または宅配便着払い伝票に住所・氏名を事前に記入し、必ずテストピースに同梱してください。

■ 作品焼成までの流れ

作品焼成の流れについてはairUシラバス「テキスト・教材学習」および、シラバス当該科目の「作品焼成までの流れ」をご参照ください。

大学で準備するもの：手桶、霧吹き、タタラ板（5mm、7mm）、ローラー、棧板、亀板、釉薬（土灰釉、伊羅保釉、白釉以外の釉薬を使用する場合は各自で持参のこと）、撥水剤、撥水剤用の筆、工具、土のう袋、手口クロ、ベルトサンダー、グラインダー、万力、のこぎり、金切りバサミ、シャモット、水ガラス、童仙房、カリ石鹼、バーナー、セラローラー、電動ロクロ

年間計画：「卒業制作の流れ※」にあるように、各スクーリングを受講し進めていきます。計画的に進めましょう。

※airUシラバス「テキスト・教材学習」の「卒業制作の流れ」をご参照ください。紙シラバスは本科目の前ページをご参照ください。

注意事項

■卒業制作スクーリングには事前課題が設定されています。必ず期日までに取り組み、スクーリング初日にご持参ください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

■各自制作に必要な材料が異なるため、使用する材料（陶土・石膏・顔料・原料など）、作品を制作するにあたり必要と考えられるものは各自で準備してください。制作に必要な道具を揃えて常備することで、作業を滞りなく進められるようにしたいと考えています。

※陶土や石膏、顔料、原料が必要な方は、各自で準備してください。airUシラバス「テキスト・教材学習」の「教材購入」をご参照ください。紙シラバスは巻末収録の「2019年京都造形芸術大学通信教育部陶芸コース教材購入申込書」をご参照ください。

下鴨陶芸は大学へ直接発送していただけますが、それ以外は自宅へ届きます。各自自宅から大学へ指定日着で発送してください。

【要注意】

- ・発送は材料に限ります。道具などは同梱しないこと。
- ・受講するスクーリングで使用する分のみ送ること。（複数回分など大量に送ることはできません）。
- ・発送は元払いをお願いします。着払いの手続きが要る場合は受け取りできません。
- ・送付されたものは開梱しません。スクーリング当日にご自身で開梱してください。
- ・必ず箱の外側に学籍番号・氏名・スクーリング科目名を明記してください。

TX	陶芸演習 I - 1	科目コード : 64601
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	無	
履修方法		
課題提出形態	課題の提出方法は各課題の内容をご参照ください。	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/27締切分】05/25～05/27【7/22締切分】07/20～07/22【8/26締切分】08/24～08/26 【9/23締切分】09/21～09/23【11/25締切分】11/23～11/25【2/03締切分】02/01～02/03 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	無	
担当者	堀香子、西村充*	

科目概要と到達目標

まず見る。見つめることから創造は始まります。普段見なれたものでも、改めて「見つめる」と実は自分がきちんと対象に向きあっていなかったことに驚くはず。そして触る。目を閉じて土に触れてみましょう。指先を意識して土と対話する。そこから始まる新たな発見とは何でしょうか。始めにモチーフを良く観察し、忠実かつ克明に土の形に置き換えることで全体の形と細部の特徴を掴みます。次にその特徴をデフォルメし、イメージを展開させることを学びます。観察力を磨くとともに、土の素材の特性を掴みながら、造形への探究心を深めてください。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の理解度
2. 観察力（表面的ではなく、様々な視点からモチーフを把握しているか）
3. 発想力（イメージの膨らませ方の独自性があるか）
4. 表現力（土の特性を生かすことができているか）
5. 完成度（仕上げの丁寧さ）

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。

本科目の成績評価は課題の評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』
参考文献・URL	無

第1課題

課題コード : 11

初回提出物 (一括送付)	以下のものを陶芸作品送付用ダンボールに入れて一括送付 1. 作品A・B各1点（合計2点） 2. レポート800字以上1200字以内（任意のA4用紙）
-----------------	--

初回提出物 (一括送付)	※原稿用紙：縦書き、ワープロ使用：横書き（文末に文字数記入） 3. 添削指導評価書：（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） ※『学習ガイド2019』の書式を使用のこと。 4. 2019年度テキスト作品課題提出用紙（陶芸コース専用） ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 5. 返送用宅配便着払い伝票（返送先明記） 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること
再提出物 (一括送付)	1. 再提出作品（添削指導評価書に指示があればそれに従うこと） 2. 再提出に臨んだレポート800字以上1200字以内（任意のA4用紙） 3. 再提出用添削指導評価書：（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 4. 前回D評価の添削指導評価書 5. 2019年度テキスト作品課題提出用紙（陶芸コース専用） ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 6. 返送用宅配便着払い伝票（返送先明記） 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること

課題の内容

【土による立体デッサン〈制作〉】

- ①身近にある野菜、または果物の中から興味をもったものを1つ選ぶ。
- ②粘土に触れる前に、選んだもの（モチーフ）の形、構造、表面の様子をよく観察する。五感を十分に使い、いろいろな角度から対象の特徴を感じ取ることが大切である。
- ③粘土の特性を体で感じる（特に触覚を意識する）。
- ④②で捉えたものを、③を踏まえて表現する。

作品A：土によるデッサン

できる限り、モチーフに忠実かつ克明に表現する。

作品B：作品Aを制作した後に取り組む。Aで捉えたモチーフの特徴の中で、自分が最も心を動かされた部分を強調し、自由に形を作る。

TX	陶芸演習Ⅰ－2	科目コード： 64602
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	無	
履修方法		
課題提出形態	課題の提出方法は各課題の内容をご参照ください。	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/27締切分】05/25～05/27【7/22締切分】07/20～07/22【8/26締切分】08/24～08/26 【9/23締切分】09/21～09/23【11/25締切分】11/23～11/25【2/03締切分】02/01～02/03 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	無	
担当者	中野悟朗、西村充*	

科目概要と到達目標

人が生活していく上で基本となる衣・食・住の中で食について日常の食事、食と器の関係など食文化について考察します。食事には様々な器を使いますが、日常の食事の基本となる碗についてレポート、アイデアスケッチ、図面を作製し構想力を身につけます。次に図面に基づき石膏型を制作し碗を五客作ります。作品を構想する力と同じ形をいくつも作ることができる石膏型（内型）による制作方法を習得します。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の理解度
 2. 観察力（形態や特徴を自らの視点で捉えているか）
 3. 発想力（独自の視点をもっているか）
 4. 表現力（技法の特性を把握し表現できているか）
 5. 構想力（発想を表現へと組み立てていく力）
 6. 完成度（仕上げの丁寧さ、機能性）
 7. 描写力（対象が正確に描けているか）
- 以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。

本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』
参考文献・URL	無

初回提出物 (一括送付)	1. レポート800字以上1200字以内（任意のA4用紙） ※原稿用紙：縦書き、ワープロ使用：横書き（文末に文字数記入） 2. 添削指導評価書：（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） ※『学習ガイド2019』の書式を使用のこと。 3. アイデアスケッチ3枚（任意のA4用紙） 4. 図面1枚（A4ケント紙） 5. 碗 5点 6. 2019年度テキスト作品課題提出用紙（陶芸コース専用） ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 7. 作品返送用宅配便着払い伝票（作品返送先を記入） 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること
再提出物 (一括送付)	1. 再提出作品（添削指導評価書に指示があればそれに従うこと） 2. 再提出用添削指導評価書：（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 3. 前回D評価の添削指導評価書 4. 2019年度テキスト作品課題提出用紙（陶芸コース専用） ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 5. 作品返送用宅配便着払い伝票（作品返送先を記入） 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること

課題の内容

【五客揃の碗】

1. レポート800字以上1200字以内（任意のA4用紙）
今、必要とされる食卓の在り方を自身の暮らしや地域性を取り入れ考察する。
2. アイデアスケッチ3枚（任意のA4用紙）
レポートで考察した内容をふまえて碗のデザインを3種類考える。
3. 図面1枚（A4ケント紙）
3種類考えたアイデアスケッチの中から1つを選び、A4ケント紙に碗の図面を1枚作製する。
※アイデアスケッチ、図面ともに石膏型で制作することを想定して考えること。
※図面にするために選択したアイデアスケッチの右上に◎を付ける。
※テキスト陶芸①『素材と手のトレーニング』第5部 「型」p.152～をよく読み、とりかかること。
4. 3で選択したアイディアスケッチ、図面をもとに石膏型を1つ制作し、その石膏型を使い同じ形の碗を五客制作する。

TX	陶芸演習Ⅱ－1	科目コード： 64603
配当年次	2年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	「陶芸演習Ⅰ－1」、「陶芸演習Ⅰ－2」を合格済みであること	
履修方法		
課題提出形態	課題の提出方法は各課題の内容をご参照ください。	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/13締切分】05/11～05/13【7/01締切分】06/29～07/01【9/09締切分】09/07～09/09 【10/28締切分】10/26～10/28【12/09締切分】12/07～12/09【2/03締切分】02/01～02/03 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	無	
担当者	田中哲也、西村充*	

科目概要と到達目標

日本人は、四季の移ろいを敏感に感じ、日々の生活にもその変化を上手に取り込む文化があります。人々は、季節の花をあしらう事で生活に潤いを感じる事ができます。各々が身近な場所を想定し、周りの雰囲気も考慮に入れ、その場所に必要と思う花器を手びねりで制作します。手びねり技法により、作品の形をしっかりとイメージしながら、ひも状にした土を1本ずつ層を成すように重ねていきます。外の形ばかりでなく、内との関係を考えることが大切です。かたちの概念にとらわれず、土の多様な表現を試み手びねり技法を習得します。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の理解度
 2. 観察力（花と器の関係を捉えているか）
 3. 発想力（独自の視点を持っているか）
 4. 表現力（技法の特性を把握し表現しているか）
 5. 構想力（発想を表現へと組み立てていく力）
 6. 完成度（仕上げの丁寧さ、機能性）
- 以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。
本科目の成績評価は課題の評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』
参考文献・URL	無

第1課題

課題コード：11

初回提出物（一括送付）	以下のものを陶芸作品送付用ダンボールに入れて一括送付 1. 作品A・B・C各1点（合計3点）
-------------	---

初回提出物 (一括送付)	2. アイデアスケッチ3枚（任意のA4用紙） ※アイデアスケッチに、制作動機などのコメントも添えること 3. 添削指導評価書：（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 4. 2019年度テキスト作品課題提出用紙（陶芸コース専用） ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 5. 返送用宅配便着払い伝票（返送先明記） 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること
再提出物 (一括送付)	1. 再提出作品（添削指導評価書に指示があればそれに従うこと） 2. 初回に提出したアイデアスケッチ3枚（任意のA4用紙） 3. 再提出用添削指導評価書：（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 4. 前回D評価の添削指導評価書 5. 2019年度テキスト作品課題提出用紙（陶芸コース専用） ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 6. 返送用宅配便着払い伝票（返送先明記） 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること

課題の内容

【花の器〈制作〉】

より土（以後、土紐に略）を一段ずつひねり上げていき、厚み部分が多層となる手びねり技法を使って、花の器を成形する。どこで、どのような形でどのような口（くち）をした器に花を生けるのか、頭にイメージを描いてから成形する。

この課題での花の器とは、水を必要とする花を生ける器（植木鉢、水盤、盆栽用鉢やドライフラワー用などの水を必要としない花器は不可）。

※他の技法（ロクロ、タタラ、型）の併用は不可。

TX	陶芸演習Ⅱ－2 科目コード： 64604
配当年次	2年次～
単位数	2
履修の前提条件	「陶芸演習Ⅰ－1」、「陶芸演習Ⅰ－2」を合格済みであること
履修方法	
課題提出形態	課題の提出方法は各課題の内容をご参照ください。
課題数	1
課題提出期間	第1課題 【5/13締切分】05/11～05/13【7/01締切分】06/29～07/01【9/09締切分】09/07～09/09 【10/28締切分】10/26～10/28【12/09締切分】12/07～12/09【2/03締切分】02/01～02/03 郵送・窓口での提出は締切日必着。
単位修得試験	無
担当者	吉村敏治、西村充*

科目概要と到達目標

「ハレの日」とは非日常、特別な日のことです。この特別な日に使う器を考えます。個人的に友人や来客を招待する時の器、誕生日や結婚記念日などの特別な日に使う器。あるいは、誰もが共有できる道具として広く提案できるものを考えるのもよいでしょう。花を生ける花器、もてなしの香を演出する香立てや香炉、箸置きなども重要なアイテムになるかもしれません。一つのもてなしの場を演出する道具を考えます。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の理解度
 2. 観察力（形態や特徴を自らの視点で捉えているか）
 3. 発想力（独自の視点を持っているか）
 4. 表現力（技法の特性を把握し表現しているか）
 5. 構想力（発想を表現へと組み立てていく力）
 6. 完成度（仕上げの丁寧さ、機能性）
 7. 描写力（対象が正確に描けているか）
- 以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。

本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』
参考文献・URL	無

第1課題

課題コード：11

初回提出物	以下のものをA3クリアフォルダーに入れ、作品送付用大型封筒等で一括送付
-------	-------------------------------------

(一括送付)	1. レポート800字以上1200字以内（任意のA4用紙） ※原稿用紙：縦書き、ワープロ使用：横書き（文末に文字数記入） 2. アイデアスケッチ 3枚（任意のA3用紙） 3. 図面1枚以上（A3ケント紙） 4. 作品（1点、あるいは1セット） 5. 添削指導評価書：（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 6. 作品返送用宅配便着払い伝票（作品返送先を記入） 7. 2019年度テキスト作品課題提出用紙（陶芸コース専用） ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること
再提出物 (一括送付)	1. 再提出作品（添削指導評価書に指示があればそれに従うこと） 2. 再提出用添削指導評価書：（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 3. 前回D評価の添削指導評価書 4. 作品返送用宅配便着払い伝票（作品返送先を記入） 5. 2019年度テキスト作品課題提出用紙（陶芸コース専用） ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること

課題の内容

【ハレの日の器】

■課題

1. レポート800字以上1200字以内（任意のA4用紙）

非日常、特別な日である「ハレの日」に使う器を考える。自分なりのハレの日を設定し、一つのもてなしの場を演出する道具を事前調査し、制作意図の重要点をまとめ、レポートにする。

2. アイデアスケッチ3枚（任意のA3用紙）

レポートで考察した内容をふまえて「ハレの日の器」を3種類考える。器は1点だけでなく、皿、鉢、組皿、あるいは箸置、香立、花器など複数組み合わせてもよい。

3種類考えたアイデアをそれぞれ任意のA3用紙にスケッチする。※なるべく精密に描くこと。

3. 図面1枚以上（A3ケント紙）

3種類考えたアイデアスケッチの中から1枚を選び、A3ケント紙に平面図（真上から見た図）、正面図、側面図を作成する。アイテム数が多く1枚のA3ケント紙に収まらない場合は、数枚に分けて作成する。図面にするために選択したアイデアスケッチの右上に◎を付ける。

※アイデアスケッチ、図面ともに主にタタラ技法で制作することを想定して考えること（部分的に石膏型、手びねりなど他の技法を想定してもよい）。

※テキスト陶芸①『素材と手のトレーニング』第4部「タタラ」p.98～、をよく読んでからとりかかること。

※図面の作成方法は、airUシラバス「陶芸演習Ⅰ-2」第1課題「テキスト・教材学習」の「制作の進め方」3. 図面の制作でもご確認ください。

4. 3で選択したアイデアスケッチ、図面をもとに主にタタラ技法で制作してください。

部分的に石膏型、てびねりなど他の技法をしようしても構いません。

TX	陶芸演習Ⅲ－1	科目コード： 64605
配当年次	3年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	「陶芸演習Ⅱ－1」、「陶芸演習Ⅱ－2」を合格済みであること	
履修方法		
課題提出形態	課題の提出方法は各課題の内容をご参照ください。	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【4/22締切分】04/20～04/22【6/17締切分】06/15～06/17【8/12締切分】08/10～08/12 【10/14締切分】10/12～10/14【12/16締切分】12/14～12/16【1/27締切分】01/25～01/27 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	無	
担当者	重森陽子、嶋田ケンジ、清水六兵衛*	

科目概要と到達目標

2年次までに学習した技法を展開し、イメージのトレーニングとしての課題です。【A】または【B】のどちらかを選択します。素材としての土の扱い、技法としての表現、造形のあり方等、いろいろな視点から土との関わりを考えましょう。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の理解度
2. 観察力（形態や特徴を自らの視点で捉えているか）
3. 発想力（独自の視点を持っているか）
4. 表現力（技法の特性を把握し表現しているか）
5. 構想力（発想を表現へと組み立てていく力）
6. 完成度（仕上げの丁寧さ）

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。

本科目の成績評価は課題の評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸②『土のメッセージ』
参考文献・URL	無

第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	※【A】または【B】のいずれかを選択し提出すること。 【A】空間を造形する 以下のものを陶芸作品送付用ダンボールに入れて一括送付
-----------------	--

初回提出物 (一括送付)	1. アイデアスケッチ 3枚 (サイズ自由。ラフスケッチで良い) 2. 作品1点 3. レポート800字以上1200字以内 (任意のA4用紙) ※原稿用紙：縦書き、ワープロ使用：横書き (文末に文字数記入) 4. 添削指導評価書： (『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入) 5. 2019年度テキスト作品課題提出用紙 (陶芸コース専用) ※選択課題 (【A】) を○で囲んでください。 ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 6. 返送用宅配便着払い伝票 (返送先明記) 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること 【B】加飾を考える 以下のものを陶芸作品送付用ダンボールに入れて一括送付 1. 作品1点 2. レポート800字以上1200字以内 (任意のA4用紙) ※作品写真を貼付のこと。 ※原稿用紙：縦書き、ワープロ使用：横書き (文末に文字数記入) 3. 添削指導評価書： (『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入) 4. 2019年度テキスト作品課題提出用紙 (陶芸コース専用) ※選択課題 (【B】) を○で囲んでください。 ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 5. 返送用宅配便着払い伝票 (返送先明記) 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること
再提出物 (一括送付)	1. 再提出作品 (添削指導評価書に指示があればそれに従うこと) ※レポート、アイデアスケッチ (【A】のみ) も同封すること 2. 再提出用添削指導評価書： (『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入) 3. 前回D評価の添削指導評価書 4. 2019年度テキスト作品課題提出用紙 (陶芸コース専用) ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 5. 作品返送用宅配便着払い伝票 (作品返送先を記入) 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること

課題の内容

【A】空間を造形する〈制作〉

【B】加飾を考える〈制作〉

※【A】または【B】のいずれかを選択し提出すること。

【A】空間を造形する

空間芸術といわれるように、造形美術にとって空間はとても大切な要素です。空間にどう形を表現するか？立体構成の発展段階として、1.塊のまま 2.形づくられた塊 (凹と凸、鋭さと鈍さ、大小の対比など…) 3.くり抜かれた塊 (充実と空虚の緊張関係など…) 4.均衡 5.運動 などが考えられます。この課題では、2.と3.に注目します。どちらかをテーマに選んで制作してください。土の生理と手の意向を意識し、大きさと強度という制限のなかでいかに空間を造形するか。アイデアスケッチをたくさん描いてから制作してください (ただし、アイデアスケッチにこだわりすぎないように)。スケッチ3枚とアイデアがうかんだきっかけと空間をどう考えたか、そして制作過程での感想を書いたレポートも提

出してください。

注) 塊をどう解釈するかもよく考えてください。

【B】加飾を考える

磁州窯、李朝の白化粧による作品を1点選び、素地、技法等を読み取ったレポートを作成します（作品写真を貼付すること）。

白化粧を施し、装飾した作品を1点制作します（レポートで選んだ作品からの発想、または写し〈模写〉。刷毛目のみによる作品は除く）。

作者が自ら選択、判断、決定等而下しながら作品を制作する時に、作者の「目の力」「読み取る力」を身に付ける必要があると思います。その「目の力」「読み取る力」を身に付ける方法として、磁州窯、李朝の白化粧による作品を1点選びます。知りうるすべてを本、文献に頼らず、必ず自らの目で追体験するがごとく読み取り記録してください。

白化粧による装飾された作品は技法的に陶芸独特の偶然が起こることが少なく、作者が手を下したことのみにより成立していると考えます。

技術・技法でなく「想い」が見えることが大切ですが、まず技術・技法を読み取ることから始めましょう。

TX	陶芸演習Ⅲ－2	科目コード： 64607
配当年次	3年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	「陶芸演習Ⅱ－1」、「陶芸演習Ⅱ－2」を合格済みであること	
履修方法	提出順序の制約なし	
課題提出形態	課題の提出方法は各課題の内容をご参照ください。	
課題数	2	
課題提出期間	第1課題 【4/20締切分】04/11～04/20【5/21締切分】05/11～05/21【7/20締切分】07/11～07/20 【8/20締切分】08/11～08/20【10/21締切分】10/11～10/21【11/20締切分】11/11～11/20 【1/20締切分】01/11～01/20【2/20締切分】02/11～02/20 第2課題 【4/22締切分】04/20～04/22【6/17締切分】06/15～06/17【8/12締切分】08/10～08/12 【10/14締切分】10/12～10/14【12/16締切分】12/14～12/16【1/27締切分】01/25～01/27 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	無	
担当者	(第1課題) 清水六兵衛*、西村充、(第2課題) 清水六兵衛*、竹村智之、田中良昭	

科目概要と到達目標

2年次までに学習した技法を展開し、イメージのトレーニングとしての課題です。第1課題、第2課題とも【A】、【B】のどちらかを選択します。第1課題はプランニング、第2課題は土を使つての制作となります。素材としての土の扱い、技法としての表現、造形のあり方等、いろいろな視点から土との関わりを考えましょう。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の理解度
 2. 観察力（第1課題：テーマを見つける 第2課題：モチーフや制作物・素材の違いをよく見ているか）
 3. 発想力（独自の視点を持っているか、アイデアの豊富さ）
 4. 構想力（発想を表現へと組み立てていく力）※第1課題のみ
 5. 表現力（技法の特性を把握し表現しているか）※第2課題のみ
 6. 完成度（第1課題：伝えるための丁寧さ。第2課題：丁寧さ、焼成まで把握し制作できているか）
 7. 描写力（対象を正確に描けているか）※第1課題のみ
- 以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。

本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸②『土のメッセージ』
参考文献・URL	無

初回提出物 (一括送付)	【A】または【B】のいずれかを選択し提出すること。 【A】 以下のものをA3クリアフォルダーに入れ、作品送付用大型封筒等で一括送付 1. 作品1～3枚（A3セント紙） 2. レポート800字以上1200字以内（任意のA4用紙） ※原稿用紙：縦書き、ワープロ使用：横書き（文末に文字数記入） 3. マケット単体の写真（裏面に構想のサイズを明記） 4. 添削指導評価書：（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 5. 2019年度テキスト作品課題提出用紙（陶芸コース専用） ※選択課題（【A】）を○で囲む ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 6. 返送用宛名シール（返送先明記、提出時と同額の切手貼付） 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること 【B】 以下のものをA3クリアフォルダーに入れ、作品送付用大型封筒等で一括送付 1. 作品2枚（A3セント紙） 2. レポート800字以上1200字以内（任意のA4用紙） ※原稿用紙：縦書き、ワープロ使用：横書き（文末に文字数記入） 3. 添削指導評価書：（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 4. 2019年度テキスト作品課題提出用紙（陶芸コース専用） ※選択課題（【B】）を○で囲む ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 5. 返送用宛名シール（返送先明記、提出時と同額の切手貼付） 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること
再提出物 (一括送付)	1. 再提出作品（添削指導評価書に指示があればそれに従うこと）※レポートも同封すること 2. 再提出用添削指導評価書：（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 3. 前回D評価の添削指導評価書 4. 2019年度テキスト作品課題提出用紙（陶芸コース専用） ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 5. 返送用宛名シール（返送先明記、提出時と同額の切手貼付） 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること

課題の内容

- 【A】 公共空間への提案〈プランニング〉
 【B】 琳派の模様〈プランニング〉

※【A】または【B】のいずれかを選択し提出すること。

【A】 公共空間への提案

公共の場は日常空間でもあります。不特定多数の人々が行きかう場であり、集う場です。この課題は公共の場に陶芸の作品を提案することを考えます。屋外彫刻は多数存在しますが、陶芸のアートワークスはまだまだ少ないといえます。陶の持つ温かみや親近感で人々を結び付ける装置として考えましょう。公共の場は、一般に大きなスケールの空間を持っているため、そこに提案する物にも、それなりの存在感が必要となります。この課題ではまず形、色、装飾などの立体としての基本的な要素を考えると同時に、スケールも考えていかねばなりません。陶として作品化が可能かは度外視して、純粋にイメージとして特定の場に何らかの作品提案を考えてください。

【B】 琳派の模様

日本を代表する芸術様式の一つである琳派について考察し、自分なりの模様を考えてみましょう。具体的に一つ器を選定し、その器に自分で考えた模様を当てはめてみましょう。形とそこに付けられる装飾には関連性があります。器の全面に装飾するだけでなく、余白（空間）をいかに生かすかも大事なポイントです。

第2課題

課題コード : 21

初回提出物 (一括送付)	【A】 以下のものを陶芸作品送付用ダンボールに入れて一括送付 1. 作品1点 2. レポート400字程度（任意のA4用紙） 3. アイデアスケッチ1枚（任意のA4用紙） 4. 写真4枚以上（提出作品、制作工程、マケット、選外作品、それぞれ1枚以上） 5. 添削指導評価書：（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 6. 2019年度テキスト作品課題提出用紙（陶芸コース専用） ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 ※選択課題（【A】）を○で囲み、「モチーフ名を記入」欄にモチーフ名を記入する。 7. 返送用宅配便着払い伝票（返送先明記） 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること 【B】 以下のものを陶芸作品送付用ダンボールに入れて一括送付 1. 作品3点 2. レポート500字以内（任意のA4用紙） 3. 添削指導評価書：（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 4. 2019年度テキスト作品課題提出用紙（陶芸コース専用） ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 ※土灰釉か無釉を選択し、○で囲む。 5. 返送用宅配便着払い伝票（返送先明記） 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること
再提出物	1. 再提出作品（添削指導評価書に指示があればそれに従うこと）

(一括送付)	2. 再提出用添削指導評価書：（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 3. 前回D評価の添削指導評価書 4. 2019年度テキスト作品課題提出用紙（陶芸コース専用） ※シラバス巻末収録及びairUテキスト科目シラバス内「テキスト・教材学習」に収録のものをコピーまたは出力し使用のこと。 5. 作品返送用宅配便着払い伝票（作品返送先を記入） 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること
--------	---

課題の内容

- 【A】 イメージとかたち、色（制作）
- 【B】 素材を探る（制作）

※【A】または【B】のいずれかを選択し提出すること。

【A】 イメージとかたち、色：テーマ「植物」

人は物を見るときに形と共にまず目に入る印象を〔色〕で決めます。その〔色〕を主眼において〔植物〕をモチーフにした造形作品や〔植物〕を形や装飾に使った器などを制作しましょう。やわらかい、硬い、はっきりした、穏やか、など形や色には持つイメージがあります。自分で発想したイメージに合うモチーフの形や色を使ったり、イメージからもっと発展させてみたりしてアイデアを膨らませましょう。色から発想したモチーフや形を作っても面白いでしょう。

絵付けのみならず、いろんな彩色。白化粧、色化粧。陶土そのままの色、色土による制作。釉薬の色。地の色と新たに付けた色、それぞれが透けた色。それぞれの組み合わせ。多色。自分の作る形のイメージに合った色を選んでください。

【B】 素材を探る

この課題では焼き物に欠かせない素材である「土」に注目します。異素材である「セルベン」を混合すると、その可塑性は変化します。そして、%の違いで感触や表情も変化します。まずはそれを感じ取ってください。例えば、ある程度の%までは作り易く、それ以上になると作りにくかったり、%が増えるほど土の表面にその特徴がより現れたりします。各自が眼や指先で感じ取った其々の「土」の特徴を活かすという事を頭に置きながら制作してみましょう。また、制作した結果「土」の特徴が現れていないと思ったら何度でも挑戦してください。また、「素材をつくる」と「素材でつくる」事を経験する中で感じたこと、どのような感想を持ち、どのような手法で素材の特徴を活かす事が出来たかなど（自宅焼成の場合は焼成後の感想も付け加える）をレポートにまとめて提出してください。

TX	陶芸演習Ⅳ	科目コード： 64609
配当年次	4年次～	
単位数	4	
履修の前提条件	卒業制作着手を許可されていること	
履修方法	第1課題合格後、第2課題の提出	
課題提出形態	課題の提出方法は各課題の内容をご参照ください。	
課題数	2	
課題提出期間	第1課題 【4/29締切分】 04/27～04/29 第2課題 【12/23締切分】 12/21～12/23	
単位修得試験	無	
担当者	清水六兵衛*、西村充、神内康年	

科目概要と到達目標

4年次（卒業制作）は、3年次までに学習した制作経験を踏まえ、クレイワーク・器の枠にとらわれることなく、各自が制作テーマを設定し、卒業制作担当教員と相談の上、スクーリング科目「卒業制作」とテキスト科目「陶芸演習Ⅳ」の課題を進めます。

評価基準と成績評価方法

1. 発想力（独自の視点を持っているか）
 2. 表現力（技法の特性を把握し表現しているか）
 3. 構成力（発想を表現へと組み立てていく力）
 4. 完成度（仕上げの丁寧さ）
- 以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。

本科目の成績評価はスクーリング科目「卒業制作」の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	陶芸①『素材と手のトレーニング』、陶芸②『土のメッセージ』
参考文献・URL	無

第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	以下のものを陶芸作品送付用ダンボール、または任意のダンボール箱に入れて一括送付 1. エスキース5枚以上（任意のA4用紙） ※着彩すること 2. レポート1,000文字程度（任意のA4用紙） ※素材（陶土）、釉薬、焼成の種類を明示すること
-----------------	---

初回提出物 (一括送付)	3. 作品のマケット（縦15cm×横15cm×高さ15cm程度） 4. 添削指導評価書：（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 5. 作品返送用宅配便着払い伝票（返送先明記） 6. レポート返送用宛名シール（返送先明記、15円切手貼付） 【注意】すべての提出物に、学籍番号・氏名を必ず明記すること
再提出物 (一括送付)	再提出機会なし

課題の内容

【自己表現の確立／制作構想】

卒業制作の計画書を作成します。卒業制作に着手するにあたり、現在、各自が制作したいと考えているイメージを具体的に記述（エスキース、レポート）し、作品のマケットを制作してください。この計画書および作品のマケットをもとにスクーリング「卒業制作（必修1）」にて各自のプレゼンテーションを行います。作品のサイズは、卒業制作展での1人あたりのスペースを考慮し、75cm×75cm（正方形と考えた場合）の面積で展示する作品を考えてください。ただし、1つのパーツの大きさを縦40cm×横 50cm×高さ50cmに限定します。（電気窯のサイズは教材・テキストの参考資料を参照のこと）

第2課題

課題コード：21

初回提出物 (一括送付)	以下のものを作品送付用大型封筒等で一括送付 1. ポートフォリオ1冊 (A4サイズ1冊) 2. 添削指導評価書：(『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入) 3. 作品送付用宅配便着払い伝票 (返送先明記) 【注意】提出物に、学籍番号と氏名を必ず明記すること
再提出物 (一括送付)	再提出機会なし

課題の内容

【自己表現の確立／ポートフォリオの作成】

今までの学習の総括として各自が制作してきた作品のポートフォリオを作成する。過去に制作した作品を振り返ることで現在の制作スタンスを確認すると同時にこれまでの制作経緯から各自が求めてきた制作コンセプトを確認し、卒業後の制作動機を高める。